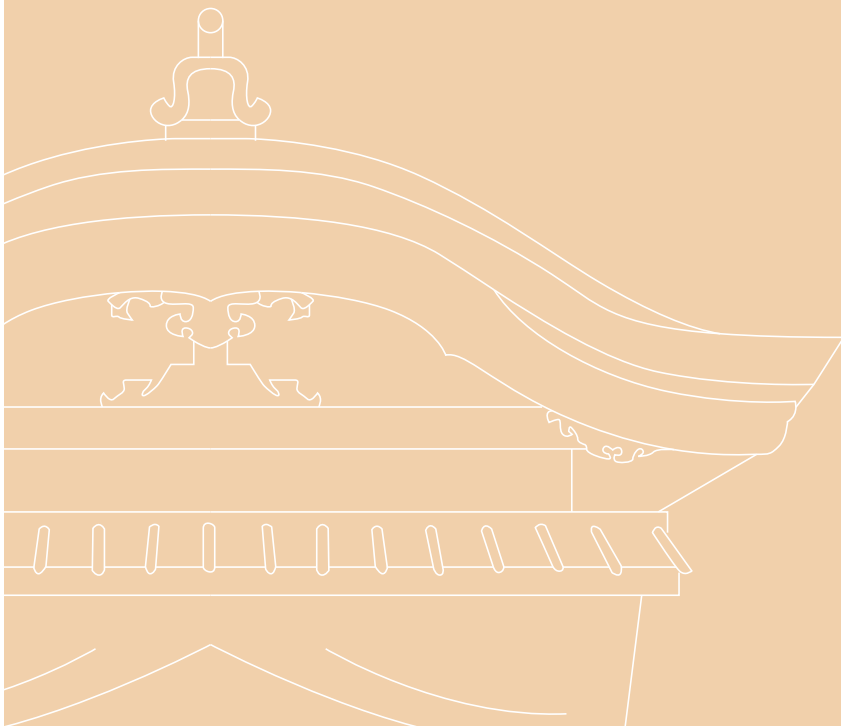


長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
れきぶん 学びのプログラム



長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
れきぶん 学びのプログラム

ごあいさつ

長崎歴史文化博物館
館長 水嶋 英治

「博物館の存在意義は何か？」

38年間の私の博物館人生の中で、この問いは頭の中から一度も離れたことはありません。資料の保存と継承、展示、教育、研究など、博物館の機能は様々です。博物館の運営側から見れば、確かにそうかも知れませんが、しかし、その一方で、来館者、お客さんの側から見れば、「楽しみたい」「学びたい」「珍しいものを見たい」「ボランティアとして社会貢献したい」など、これまた様々なニーズがあります。

最近では、「教育」という言葉は上から目線なので、教育ということばを使うのをやめよう、という博物館もあるようです。18世紀のフランスでは、啓蒙思想がありましたが、さすがに今日では博物館を「啓蒙思想」の拠点であるとは、誰一人思ってもいないでしょう。啓蒙とは、人々に新しい知識を与え、教え、導くことです。「啓蒙」ということばの方が、「教育」よりもより一層強いことばですね。

開き直って、歳を取った人のほうが知識量が多いのか、と問えば、そんなことはないですね。これほど技術革新の早い時代には、年配者よりも若い人の方が詳しいことがたくさんあります。ですので、子どもがお爺ちゃん・お婆ちゃんに教えることだってたくさんあるでしょう。

そうしてみると、歳に関係なく、幼児から超高齢者に至るまで、生涯にわたって博物館を利用できる博物館は一種の「社会教育施設」であり、生涯を通して学習する場であるという考え方もできます。そうしていただければ、博物館側としては、これほどの嬉しいことはありません。教育、学び、ラーニング、体験学習、ことばは何であれ、博物館は、年齢差を越えて経験を分かちあい、楽しむ場です。

伝統工芸の体験も、本で読むだけでなく、手を動かして何かを創っていく。価値創造の世界です。次世代継承していくためには、年配者が若輩者と交流する場がなければなりません。その裏方でプログラムを運営しているのが、実は博物館の教育活動であり、博物館を支えてくれる人々であり、講師であり、ボランティア、地元の有志たちです。子ども向けの講座も講師たちの献身的な支えがあって初めて成立する事業です。れきぶんこどもクラブ、こども茶道クラブ、おはなし会、夏休みイベントなど、れきぶんには多くの活動がありますが、常日頃、博物館をご支援いただいている方々のご理解と協力があってこそ成り立つものであります。本書が博物館と子どもたちをつなぐ一助になることを祈りつつ、皆さま方に改めて感謝申し上げます。

知育、体育、徳育の3つの教育分野のうち、文化体験や歴史体験を通して、知育・徳育に責任を持って博物館の運営にあたりたいと考えております。今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

(1) れきぶんこどもクラブ



(2) こども茶道クラブ



(3) はくぶつかんのおはなし会



(4) れきぶんの夏休み



目次

子どもの成長と博物館	7
子ども向け講座 事例集	
1. れきぶんこどもクラブ	10
概要	
(1) 常設展関連 (博物館職員による指導)	12
はくぶつかんたんけん / きらきら屏風 / くんち手ぬぐいをつくろう /	
南蛮マントをつくろう / てんらん会をつくろう	
(2) 外部講師による指導	17
こうぞ?! で紙すき 講師寄稿 /	
粘土でつくるこねこねモンスター 講師寄稿 /	
粘土でつくる My カップ / ガラス絵のふしぎを知ろう /	
南画ってなあに? 講師寄稿	
(3) 企画展関連 (博物館職員による指導)	26
牛乳パックカメラをつくろう / けいがの絵をスケッチしよう /	
空とぶモビルをつくろう / 巻物に手紙をかいてみよう! /	
カメラマンに挑戦!	
アンケート調査結果	31
れきぶん親子クラブについて	37
2. こども茶道クラブ	40
概要	
アンケート調査結果	
講師寄稿	
3. はくぶつかんのおはなし会	48
概要	
ボランティアスタッフの声	
4. れきぶんの夏休み	52
概要	
れきぶんナイトミュージアム / 宝物のひみつ発見!	
5. 孫文・梅屋庄吉ミュージアムの取り組み	60
概要	
ほんしゃんナイトミュージアム2018	

子どもの成長と博物館

学芸グループリーダー 竹内 有理

歴史を扱う博物館に対して抱くイメージは、「難しそう」「堅苦しい」「大人が行く所」などといった言葉に代表されるのではないだろうか。江戸時代の長崎奉行所を再現した建物が与える印象も、ともすると近寄りたがいのものに映るかもしれない。そのような印象を払拭し、子どものときから博物館に親しんでもらうことが地域博物館の役割であると考えている。そのためには、できる限り人生のあらゆるステージで博物館と係わりが持てるきっかけを作っていく必要がある。

本報告書では、開館以来、取り組んできた子ども向けの教育プログラムの事例をまとめてみた。それらは、家族や子ども個人で参加できるプログラムで、学校の授業や行事の際に利用するプログラムとは区別している。学校向けのプログラムについては、すでに3冊の教育実践報告書（『出会いが生み出す学びのレシピ』『博物館と学校をつなぐ学びの実践』『アウトリーチ活動』）の中で様々な実践事例を紹介している。

学校向けのプログラムを学習指導要領にもとづいたフォーマルな学習の補完、あるいは学校と連携した活動と捉えたとすると、ここで紹介している子ども向けのプログラムは学校の授業やカリキュラムとは必ずしもリンクしない「自由な学び」、すなわちインフォーマルな学習と捉えることができる。それらは博物館の教育担当学芸員が独自の問題意識や興味から考案したプログラムということもできる。

これまで取り組んできた教育プログラム全体を通じて言える目的は、主に二つに集約される。一つは、博物館そのものに親しんでもらうこと、もう一つは、郷土の歴史や文化に興味を持ってもらうことである。これら二つの目的を達成できれば本望だが、一つめの博物館そのものに親しんでもらうことから出発して、いつの日か、歴史や文化に興味を持ってもらえればよいと考えている。

ここで「子ども」の定義を改めて整理しておきたい。子どもの10年と大人の10年では、同じ時間が経過しているのに、その成長の度合いはまったく異なっている。したがって、子どもを対象にしたプログラムを考える際は、年齢や学年を細やかに区別する必要がある。当館の教育プログラムでは、主に次のような年齢・学年を対象に、それに応じた教育プログラムを提供している。

第1段階 未就学児 0才～5才

第2段階 小学1年生～6年生 6才～12才

未就学児を対象にしたプログラムとしては、季節の節句にちなんだ「はくぶつかんのおはなし会」を行っている。小学生を対象にしたプログラムとしては、「れきぶんこどもクラブ」と「こども茶道クラブ」があり、茶道クラブのほうは3年生以上を対象にしている。詳細は本編に譲るが、おはなし会は随時募集型で参加者を募っている。それに対して「こどもクラブ」と「茶道クラブ」は定員20名とし、連続7回の講座を約半年間かけて体験する内容となっている。

子どもを対象にしたプログラムを実施するにあたり、対象年齢のほかに留意すべきことは、その内容や手法である。大人向けの講座のように、座学形式で講義を聴くスタイルは、子どもには馴染まない。「楽しむ」「体験する」「自ら考える」ことが、子どもの学びには特に重要な要素なので、それらを意識してプログラムを企画している。

前述の「こどもクラブ」や「茶道クラブ」については、継続的に行っている講座なので、単発で行うプログラムに比べて子どもに与える影響が大きく体験の質も高いことが予測される。今回、参加者とその保護者を対象にアンケート調査を行い、その回答結果を分析すると、プログラムの効果

が鮮明に見えてきた。

保護者の回答を見ると、子どもの変化を客観的に見ており興味深い。こどもクラブの活動が子どもにとって良い効果があったと思うかどうかを訊ねたところ、「とてもあった」が52%、「まああった」が42%で、合わせると94%の親が効果があったと感じている。その理由として、「その日に学んだことを調べてみたりして興味を持つようになった」「毎回、活動内容を楽しそうに話してくれた」など、アンケート結果を通じて子どもの反応を知ることができた。また家庭や学校ではできない博物館ならではの体験ができたことが良かったという意見も多かった。また異なる学年や学校の子どもたちと一緒に活動できたことが良かったという意見も複数見られた。そして、回答者の8割がこどもクラブの活動を終了した後、家族で博物館に来たことがあると答えていることから博物館のリピーターになってきていることがわかる。

今回のアンケート調査は、こどもクラブに参加してから2年後もしくは3年後に調査しているが、本プログラムが与えた長期的な効果を知るためには、もう少し期間を置いてから調査を行う必要がある。これについては今後の課題としたい。

2015年度から始めた茶道クラブは、こどもクラブに比べると歴史は浅いが、着実に参加希望者が増えており、その効果も見られるようになった。茶道に興味があれば、先生について稽古を始めることも可能であるが、博物館で体験できることで、茶道に対する敷居がずっと低くなることは確かである。表千家同門会長崎県支部の全面協力により、一流の講師陣の指導をリーズナブルな参加費で受講することができる。あくまでも導入としての活動であるが、茶道クラブに参加したことにより、「マナーや作法が身についた」、「動作やふるまいがきれいになった」という効果が見られている。さらに個人的に稽古についたり、中学校でも茶道部に入るなど、その後の行動にも茶道クラブでの体験が影響を与えているケースもある。茶道の体験は、郷土の歴史や文化に対する理解を深めることに必ずしも直結していないかもしれないが、この体験を通じて、日本の伝統文化やお茶の道具、床に飾られた掛け物などに、将来興味を持つことにつながっていく可能性は十分ある。そのようなきっかけの場を与えるのも博物館の重要な役割ではないだろうか。

最後に、2014年に開館した長崎歴史文化博物館の分館である長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアムでの子どもを対象に実施しているプログラムについても本報告書で取り上げている。展示だけではなし得ない様々な取り組みを行うことにより、徐々にではあるが、確実に子どもの参加を増やしている。

これからも試行錯誤を重ねながら、子どもたちの学びを深め、可能性を拓けていけるようなプログラムの開発に努めていきたいと思う。

1. れきぶんこどもクラブ

れきぶんこどもクラブ

学芸グループ 出口 幹子

概要

小学生が継続的に博物館と関わりながら、ものづくりや展示室の見学を通して、長崎の歴史や文化への関心を高めることを目的として、2009年度より「れきぶんこどもクラブ」の活動を始めた。具体的には、1年間に前期と後期に分け、それぞれ20名の固定メンバーで7回連続の講座とし、活動は土曜日の14時から16時までの2時間である。講座は外部講師による紙すき体験やガラス絵制作、陶芸、粘土を使った作品作り、南画体験のほか、研究員が考案した企画展や常設展に関連した内容とした。

今年度で11年目を迎えるこどもクラブであるが、対象年齢を小中学生から小学生に改めたり、初回に「はくぶつかんたんけん」を加えたり、内容を見直しながら活動している。

現在は、初回にはオリエンテーションをかねて、参加者全員で、博物館の敷地や展示室などを探検している。施設を知るだけでなく、水琴窟の音を一緒に聞いたり、展示室を回ったりするなど一緒に行動することで、子どもたちが打ち解ける良い機会となっている。第2回から第6回までは、展示室の見学と作品づくりを行った後、最終回には子どもたちの作品を、自分たちで決められたスペースに展示して、活動のまとめとしている。

作品はその後、館内で2週間ほど展示をして返却する。こどもクラブでは保護者には送迎のみお願いしており、子どもたちの活動の様子を見ることはない。7回目が終わったあとに親子で会場を訪れ、子どもたちが熱心に作品について説明する様子も見受けられ、作品を通して、親子のコミュニケーションをはかる場ともなっている。

*活動実績

2017年度（前期）

	開催日	内容	講師
第1回	4月22日(土)	諏訪の森たんけん (はくぶつかんたんけん)	当館研究員
第2回	5月13日(土)	『ジブリの大博覧会』関連企画 空飛ぶモビルをつくろう	当館研究員
第3回	6月 3日(土)	こうぞ?!で紙すき	石田孝氏
第4回	6月17日(土)	粘土でつくるこねこねモンスター	近藤浩一氏 (長崎県美術協会彫刻部評議員)
第5回	7月 8日(土)	粘土でつくるMyカップ	和久井碧氏(社会福祉法人 三彩の里)
第6回	7月22日(土)	孫文・梅屋庄吉ミュージアムたんけん	当館研究員
第7回	8月 5日(土)	てんらん会をつくろう	当館研究員

2017年度（後期）

	開催日	内容	講師
第1回	9月30日(土)	諏訪の森たんけん (はくぶつかんたんけん)	当館研究員
第2回	10月14日(土)	くんち手ぬぐいをつくろう	当館研究員
第3回	11月 4日(土)	『川原慶賀の植物図譜』展関連企画 慶賀の絵をスケッチしよう	当館研究員
第4回	12月 2日(土)	ガラス絵のふしぎを知ろう	濱井隆氏(日本美術家連盟会員)
第5回	1月13日(土)	南画ってなあに?	田中正博氏(長崎青房会長)
第6回	2月 3日(土)	袴作りに挑戦&奉行所豆まき	当館研究員
第7回	2月17日(土)	てんらん会をつくろう	当館研究員

こどもクラブ終了後には、活動評価と今後の参考にアンケートを実施している。「参加して楽しかったか」「また参加したいか」という項目では、参加者のほとんどが良好な結果となっており、自由記述でも「楽しかった」「いろんなことにチャレンジできたから、いいクラブでした。」という意見が多く見られ、子どもたちの満足度は高いことがうかがえる。

保護者アンケートでは、「また子どもを参加させたいか」「知人にこどもクラブを紹介したいか」という項目でもおおむね好評な意見が多かった。自由記述では「娘1人の参加で不安だったが、毎回とても楽しみに参加していた」という意見も多くあり、活動を通しての子どもの成長を保護者が温かく見守る様子も感じられる一方、「もう少し、高学年向けのプログラムをしていただきたい」といった意見もあり、参加者が同じプログラムを行う中で、高学年にも満足が得られるような内容を考えることは今後の課題である。

また応募者が定員を超えることも多く、ほとんどの会で抽選を行っているため、希望に添うことが出来なかった子どもたちや保護者に対して、今後どのような働きかけが可能なのか考えていきたい。

こどもクラブは外部講師や、業務支援ボランティアの支援もあり、当館がめざす成長段階に応じたプログラム展開の中で、小学生向けの中心的なプログラムとなってきた。しかしながら、「おはなし会」「こどもクラブ」の次につながるプログラムが現在は空白のままであり、次は一般向けの講座という形となっているため、こどもクラブを終了した子どもたちが参加できるものは、「企画展」や夏休みなどの長期休暇中のプログラムに限られている。

子どもたちと継続して関わるためには、こどもクラブを終了した子どもたちや中学生・高校生を対象に、どのようなプログラム展開ができるのか、他館の事例も参考にしながら検討していく必要がある。

活動の例として、2017年度の年間スケジュールを掲載した。リピーターも多いため、外部講師の回を除き、なるべく前年と同じ内容の繰り返しとならないよう考慮してプログラムを組みあわせている。次頁より、これまでに行ってきたプログラムから一部を事例として紹介する。



事例集

(1) 常設展関連（博物館職員による指導）

【はくぶつかんたんけん】

*活動の目的

全7回のうち最初の活動であり、基本的には每期共通の内容である。こどもクラブがきっかけで館を初めて訪れる子どもたちも多い。そのため、当博物館がどのような場所なのか、どのようなものがあるのかを紹介するとともに、子どもたちの緊張をほぐすことを目標とする。

スケジュール

1. こどもクラブのおはなし（2時00分～2時15分）
ボランティアを含む担当スタッフと参加者の自己紹介を行い、これからの活動について簡単に説明する。
2. はくぶつかんたんけん（2時15分～2時50分）
低学年と高学年のグループに分かれて、スタッフが話しながら、常設展示室や館の外観を案内する。
3. お気に入りスケッチ（2時50分～3時40分）
画板・画用紙・クーピーを配布。気に入った展示物や、博物館から見える風景を自由にスケッチする。描く数はいくつでも、部分だけでもよいことを伝える。
4. 絵のタイトルや感想を書く（3時40分～4時00分）
スケッチした画用紙に、タイトルや自分の名前を書いておく。全7回の活動を記録するためのスケッチブックを配布し、活動内容のプリントを貼り付け、今日の感想を書き込む。次回の日程を確認して解散。

*ふり返り

中にはリピーターもいるが、時間を置いて同じ活動に再び取り組むことで、前回とは違う作品が目にとまったり、同じものをスケッチした場合にも新たなことに気が付いたりそれぞれ楽しんでいる様子が見られる。見学前には必ず「お話は小さな声です」「まわりをよく見てゆっくり歩く」という博物館のマナーを伝え、月に数回館へ通う中で、自然に身につくことが期待できる。



【きらきら屏風】

*活動の目的

日本の美術には巻物、掛け軸、屏風等様々なかたちがあり、その中でも屏風について仕組みや役割を学ぶ。また、博物館での展示方法や工夫について紹介する。

スケジュール

1. 今日することのお話（2時00分～2時10分）

講座室に「南蛮人来朝之図」、「寛文長崎図屏風」の複製を用意しておく。

2. 屏風について知ろう（2時10分～2時30分）

複製品や、展示室内の本物の屏風を鑑賞しながら、そのしくみや元々の役割（昔は部屋の中で風よけや仕切りとして使われていたこと）について紹介する。人々の様子を描いたもの以外にも、景色や動植物を描いたもの、文字を書いたもの、小さな絵や書を複数貼り合わせたものなど、色々な屏風があることを知ってもらう。

3. ミニ屏風を作ろう（2時30分～3時45分）

それぞれ好きなテーマを決めて、金色の工作用紙（予め屏風の形に折ったもの）に、絵や字を書いたり材料を貼り付けたりして、オリジナルのミニ屏風を作る。

主な材料：マスキングテープ、千代紙、スパンコール、マジックペン

4. スケッチブックに感想を書く（3時45分～4時00分）

*ふり返り

屏風は大きく重たいため、扱い方までは実践できないものの、夏休みの「宝物のひみつ発見！」同様、資料のかたちに注目する講座のひとつである。展示されている本物を見るほか、移動博物館の際などに使用している複製の「寛文長崎図屏風」には、子どもたちに実際に触れてもらった。各々のペースで、じっくり観察する子や何度も開閉する子もおり関心は高まったようだ。普段は滅多に触れることも見ることもない屏風が、「自分の部屋の中にあったら…」というイメージを持ってもらえただろうか。「南蛮人来朝之図」では金色の雲で場面を区切る工夫があると話したところ、画面に雲を取り入れた作品が複数できあがった。



【くunch手ぬぐいをつくろう】

*活動の目的

江戸時代から続く秋の大祭「長崎くんち」の歴史や文化に親しむ。出演者の鉢巻きや、出演祝いのお返しとして、手ぬぐいは長崎くんちに欠かせないものである。手ぬぐいを通して各町の特徴を見るとともに、昔の日本人にとっての手ぬぐいがどのようなものであったのかを知る。

スケジュール

1. 今日することのお話（2時00分～2時10分）

近年の長崎くんちで使用された、町ごとにデザインの異なる手ぬぐいを紹介する。

木綿の手ぬぐいは昔の人にとって、ハンカチやタオル、スカーフ、鉢巻きやかぶり物など色々な使い方ができる、身近で便利なものだったことを話す。

2. 常設展示見学（2時10分～2時40分）

くんちには、南蛮船やオランダ船、唐船、御朱印船など、長崎の歴史に由来する演し物が多くある。それらに関連する「南蛮人来朝之図」や「寛文長崎図屏風」、長崎刺繍が施された祭衣装などを見学。また特集展示「くんち384年展」や、ロビーの「今年のおくんち写真展2018」を紹介する。

3. 手ぬぐいに絵をかこう（2時40分～3時40分）

白手ぬぐいを配り、広げて大きさを確かめたあと、布用の染色ペンを使用して、くんちに関連するものの絵や文字を自由にかく。時間があれば、何をかいたか、また工夫したところや気に入っているところについて発表する。

4. スケッチブックに感想を書く（3時40分～4時00分）

*ふり返り

絵が得意な子ばかりではないので、いくつかのお手本を組み合わせて写すこともできるよう、簡単なイラストをコピーした紙を複数用意しておく。紙に描くのと違って上手いかないこともあるが、それも「味」として、自分だけの手ぬぐいが完成すると「早く使いたい」と嬉しそうに見せてくれる。

子どもたちに知ってもらうことが伝統行事の継承していくための一歩である。しかし、長崎くんちについての資料や関連書籍は当館にも沢山あるが、その歴史やしきたりなどについて、子ども向けに分かりやすく紹介しているものはまだ少ない。教育普及担当者の一人は長崎くんちへの出演経験があり、またクラブ参加者の中にもくんちに関わったことのある子がしばしば混じっている。住んでいる地域によっても、関心の高さはまちまちであるが、出演者側の話や、展示物の迫力にふれて、それまであまりくんちを詳しく知らなかった子どもたちも、少し身近に感じられてきた様子であった。



【南蛮マントをつくろう】

*活動の目的

服装の比較を通して、昔の日本とヨーロッパの文化に違いがあることや、歴史資料には現代の私たち（洋服）につながるものがひそんでいることに気づく。貿易が始まってヨーロッパの人々がやってきた頃の長崎の様子や、当時花開いた南蛮文化の特徴について知る。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時30分）
導入として、長崎県制作の映像「天正遣欧使節」を鑑賞する。
2. 常設展示室見学（2時30分～2時50分）
「伊東マンショ肖像」や「南蛮人来朝之図」等の資料をみんなで見る。南蛮人の服装に注目し、気がついたことを話し合う。マント、ズボン、パン、カステラその他、南蛮から伝わって日本語になった言葉を紹介する。
3. 南蛮マント作り（2時50分～3時45分）
黒やグレーの布地を選び、スパンコールやホログラムテープを使って自由に飾りつけをしていく。完成したら、ひもで前を結んで着用し、記念撮影をする。
4. スケッチブックに感想を書く（3時40分～4時00分）

*ふり返り

低学年から高学年までの子どもたちが一緒に活動するため、まずは資料のなかに見えているものをよく観察してもらうことを優先した。歴史についての解説は簡単なものに留めるが、子どもたちの知っている「チキン南蛮」の「南蛮」が、実は昔の長崎と関係があるとか、伊東マンショたち四少年は日本を出発した時の年齢が皆とそれほど変わらないことなどを話すと、驚いた様子で展示資料をのぞき込む子もいた。

しわが寄りやすく肩を覆うほど大きな布に、長いテープを貼るのが、小さな子どもの手では難しく、大人の補助が少し必要になる。2018年度には夏休みイベントとして実施したが、なかには親子での参加もあり、協力しながら制作を楽しんでいる様子だった。



【てらん会をつくろう】

*活動の目的

これまでの6回の活動で作った作品を子どもたち自身で展示することで、展示を作る側の視点やさまざまな工夫、博物館の役割についての理解を深めてもらうことを目的としている。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時05分）
今日の活動の流れについて、簡単に説明する。
2. 展示の見学（2時05分～2時35分）
まず展示会場の下見を行い、展覧会をつくるということを意識させる。また展示室では資料の高さやバランス、照明の当て方やキャプションなど、作品を「みせる・伝える・守る」工夫を行っていることを伝える。
3. バックヤード見学（2時35分～3時00分）
資料の保管状況を説明する。資料運搬用の大型エレベーターに乗るなどして、資料を守るための工夫や、展示ができあがるまでの過程を見学する。
4. 作品の説明シートをつくる（3時00分～3時15分）
これまで作った作品を、来館者に紹介するための説明シートをつくる。展示の先に来館者がいることを意識し、お気に入りの作品やその理由、こどもクラブに参加した感想、見に来てくれた人へのメッセージなどを書く。
5. 作品を展示しよう（3時15分～3時50分）
自分のスペースに作品を展示する。作品の位置や固定方法など職員と一緒に確認する。
時間があれば、自分の展示で工夫したところを発表する。
6. 写真撮影・終わりの会（3時50分～4時00分）
最後に参加者全員で写真撮影をし、作品の受け渡し方法について伝える。

*ふり返り

今回の活動は、「子どもたち自身で作品を飾る」ということがゴールであるため、展示室の見学では、展示の工夫や照明など、これまでとは視点を変えて紹介をした。作品展示の場面では、見学を活かし、限られたスペース内ではあるが、お客さんに見やすい展示を心がけている子どもが多かった。博物館のさまざまな仕事について、お話できる良い機会であった。



(2) 外部講師による指導

【こうぞ?!で紙すき】 講師：石田 孝氏

*活動の目的

展示室で和紙を材料につくられた屏風や巻物、本といった資料を見学したあと、講師の指導を受けながら、「和紙」がどのようにして作られるのか体験する。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時15分）
講師の紹介とこれらの活動について、簡単に説明する。また講師からは洋紙と和紙の違いや、楮（こうぞ）・トロロアオイなどの材料について説明する。
2. 展示室の見学（2時15分～2時25分）
展示室で和紙に関係する屏風や巻物、本などの資料を紹介する。
3. 切り絵で模様づくり（2時25分～2時45分）
講座室に戻り紙にすき込む切り絵を、1人3点ほど千代紙で作る。
4. 紙すき体験とこうぞ体験（2時45分～3時45分）
2グループに分かれ、B4サイズと色紙の大きさの紙をすく体験と、紙の材料である楮の皮を叩いて繊維状にする体験を交互に行う。
5. 感想を書く（3時40分～4時00分）
スケッチブックに今日の感想を記入する。

*ふり返り

展示室の見学では、博物館の宝物である資料が、子どもたちにとっても身近な「紙」を材料に作られていることに驚く子どもが多く、紙すきへの期待が高まっていた。

実際の紙すきでは、楮やトロロアオイなどを混ぜた材料の感触に驚きながらも、一生懸命「桁」という道具を動かす姿が印象的であった。こどもクラブを開始した2009年から5年間は、和紙に関する講座は2回行っていて、1回目は紙すき、2回目は自分ですいた和紙を使って、ランプシェードなどの作品を作っていたが、現在は紙すきのみを行っている。和紙の材料や工程などを楽しみながら体験できる貴重な機会であるため、今後も講師と連携しながら活動を継続していきたい。



れきぶんこどもクラブ「こうぞ?!で紙すき」について

石田 孝

文化5年（1808）の「市中明細帳」では本紙屋町の箇所43ヶ所竈数187で1934坪とあり、箇所が多くが紙漉きを生業としていたことが考えられます。中島川沿い旧町名本紙屋町（現八幡町）があるように、史料として川原慶賀の「紙漉き、布晒し」（長崎歴史文化博物館・ライデン大学蔵）は、風頭山や彦山と思わせる背景に水車があり中島川対岸の紙漉所が描かれ、また長崎大学古写真「中島川と編笠橋（3）」には、漉いた和紙を対岸に天日に干している明治のものがあり、そして松森神社の職人尽「紙製造之図」にはその工程が彫られています。これらの史料を使って本紙屋町を探したり長崎和紙の歴史を説明して、次に和紙と洋紙の違いを切ったり書いたり触ったりして考え、原料の楮^{こうぞ}の短枝から皮をはぎ、室外では硬い石の上でハンマーで叩いてレース状の繊維を取り出してみることがあります。紙料を漉き舟に左右上下均等に拡散させるネリには化学薬品のアクリパーズを使っていますが、先人が使っていたピナンカズラやノリウツギの枝や花オクラの根を叩き水に浸けて作った粘液の触感を体験することもあります。

紙漉きだけでは単調になるので、折り紙を使って雪の結晶や花紋などの「紋切り」をして漉き込んだり、野草を採って漉き込むこともあります。以前二回講座の時は、一回目に和紙を漉き、二回目に竹でランプシェードのフレームを楮^{こうぞ}ひもで作成、自作和紙を貼り付け照明を落としてランプを点けると暗闇の中に自作シェードがくっきりと浮かび上がり、歓声が起こりました。後日談に、小学二年生の女兒がそれまで母親が添い寝していたのが、その夜から自前のランプシェードで独り寝できるようになったとの感動話を聞き、講座準備の励みにしたこともあります。また団扇の竹フレームを取り寄せ自作和紙を貼り更に水切りなどで和紙のちぎり絵を貼って完成したこともあります。

現在は一回講座のため時間的余裕がなく、あの感動の瞬間を作れないのが残念ですが、子どもたちが体験してよかったという思いや二回三回参加しても異なった体験ができるプログラムが組めるように工夫する必要があります。紙漉き工程で時間がかかるのが脱水・乾燥で、掃除機による脱水の後、色紙サイズであればホットプレートで代用することも可能ですが、普通はパネルに貼って数日間天日干しをしています。天気が良ければ西御白州で、悪い時は講座室で行いますが、待ち飽きさせないために二十数名を紙漉き班と常設展の和紙作品を鑑賞する班の二班に分けて交互に行っています。いずれにしてもスタッフとボランティアの方々のサポートなしにはできません。できることなら、乾燥の短縮化によりマーブリングあるいは古来の墨流しや藍染刷毛塗りなどの技法なども体験することにより、和紙だけでなく関連の伝統文化にも興味を持つのではと考えています。

【粘土でつくるこねこねモンスター】 講師：近藤浩一氏

*活動の目的

当館の収蔵品の中には、皿や壺、根付や置物など、土から作られた工芸品（焼き物）が多数ある。土からできる物の幅広さを知るとともに、自由に創る楽しさを体験する。

スケジュール

1. 今日することのお話（2時00分～2時15分）

講師の紹介。今日の活動内容や目標について説明。

- ・「こねこねモンスター」略してこねモンとはなにか？
- ・「自由に作る」ってどんなこと？

2. こねモンをつくろう（2時15分～3時45分）

3色の粘土（赤土、白土、黒土）を使って、自由に作る。

粘土板に納まる範囲であれば、作品の大きさや数も自由。

3. 自分マークをつけよう

こねモンが完成したら、それぞれ刻印を選び、自分の作品に目印をつけておく。

※焼成は後日、三彩の里で行う。

4. スケッチブックに感想を書く（3時45分～4時00分）

*ふり返り

粘土を扱うとき、理想の形を考えていると、それをなかなか作れず苦戦することがある。「こねモン」は「誰も見たことがない」生き物、ということで、粘土をこねているうち偶然できた形からも、アイデアが浮かぶのだろう。迷う子はほとんどおらず、終了時間ぎりぎりまで夢中で作っている子が多い印象だ。この回の特徴は、何をしてもいいことだが、講師が始めに説明するように、絶対に友達のを壊したり貶したりしない、という約束がある。過去には工芸展示室の見学を行うこともあったが、近年は制作時間を長く取るため、講座室内のみの活動となっている。工芸品も人の手で作られていることや、粘土を焼くことで長く保存できるということについても紹介できるような方法を工夫したい。



粘土でつくる「こねこねモンスター」

長崎県美術協会彫刻部評議員
長崎県彫樹会運営委員
虹の原特別支援学校 研究主任
近藤 浩一

はじめに

粘土でもの作りをするときの問題点は、作った形をどのようにして保存するかということである。彫塑制作では、粘土で作った形を石膏などの別の素材に移し換える作業を経て完成とするが、技術的にも時間的にも難しいため、焼き物用の粘土で作って窯で焼成することにした。また、これまでの経験上、子どもが粘土で動物や野菜といった具象物を作るとき、作りたい形のイメージはあるが、その通りに作れず、苦手意識を抱くことも少なくない。これを回避するために、元々決まった形がない、空想上の生きもの「こねこねモンスター」を作るという設定のワークショップを計画した。

ものを創作すること

子どもに粘土を渡すと、お皿や湯飲み等を作り出す子どもが多いが、このワークショップでは、もっと自由な創作をさせたいと思った。そのために、制作前には必ず子どもたちに「誰も見たことがない、自分でも見たことがない生きものを作ろう」と提案する。そして作るときに大切なこととして「自由な心で作ることが大事だよ」と話をする。その後で「自由な心って何だろうね」と問いかけると、子どもたちは一瞬戸惑った顔をして考え出す。自分なりの解釈をもっている子どもはさっと手を上げて発表するが、その事も含めて「自由な心で作って、何を作ってもOKってことだよ。」と話す。その時の子どもたちのワクワクした顔が嬉しい。

粘土を混ぜたり、ちぎったり、くっつけたり…たまには投げつけたり…。思うがままに、自分が見たいように手を動かしながら、不思議な形の生きものを生み出すことで、子どもの固定概念を超えた、ものを創り出す本来の楽しさを味わわせたい。

三色の粘土で作る意味

粘土は、柔らかさや冷たさといった触感の面白さだけではなく、可塑性（変形した形をそのままとどめる性質）の高さから、自由に形作るという面では最適な素材である。この、粘土の感触をしっかりと味わわせるため、赤土、白土、黒土の3色の粘土を準備した。3色をそれぞれ混ぜ合わせることで、粘土の色が変化したり、マーブル模様ができたりと視覚的に楽しめる。また、混ぜると粘土が乾いてきて、固くなったりヒビが入ったりするが、霧吹きで水をかけてこねることでまた柔らかくなる。楽しみながら粘土の柔らかさは、含まれる水分の量が関係しているという特徴を感覚的に気付かせる手立てとした。

成果と課題

成果が「あった」と断言することは控えるが、実施後の子どもたちへのアンケートには、「楽しかった」という感想が多く寄せられている。また、完成作品を大事そうに持ち帰る姿も見られた。上手とか下手とか関係なく、自分がイメージした形に近づけるため、試行錯誤しながら粘土と格闘する2時間は、これまで参加した殆どの子どもたちが夢中になって制作する。この体験が、自分の思いを自由に表現できる『心の内面の育ち』に少しでも役に立てれば嬉しい。

今後は、釉薬を使って本焼きするなど、表現の幅をさらに充実していく事が課題である。

【粘土でつくるMyカップ】 講師：社会福祉法人 三彩の里

*活動の目的

材料に粘土を使う活動としては、自由に表現する「こねこねモンスター」を長年行っているが、こちらは機能のある物を考えて形作るという点で異なっている。生活の中で使いたい「Myカップ」作りを通して、常設展示室にも多数展示されている、工芸品（陶磁器）への関心を高めることを目的とする。

スケジュール

1. 今日することのお話（2時00分～2時10分）
講師の紹介。今日作るものについて、また前回（こねこねモンスター）との違いについて説明する。
2. 陶磁器について知ろう（2時10分～2時20分）
生活の中で使う、粘土で作られたモノには何があるか。道具の使い方や、粘土で形を作るコツについて講師が説明する。
3. Myカップをつくろう（2時20分～3時50分）
焼き物用の粘土を配り、湯飲みやマグカップなど（お皿も可）自分が使いたいと思う形を作る。形ができたなら、釉薬の色を選ぶ。※施釉・焼成は後日講師が行う。
4. スケッチブックに感想を書く（3時50分～4時00分）

*ふり返り

自由な発想で空想上の生き物「こねモン」を作る活動をこどもクラブ内で行っていたところ、お皿やコップなども作ってみたいとの意見があった。そこで「こねモン」講師の近藤氏より、大村市にある三彩の里の先生をご紹介いただき、2017年より年間プログラムに加えることになった。自分の中でイメージができており、器用に好きな形を創り出す子も多いが、低学年の参加者にとっては、指で筒型を作るのがなかなか難しいようだ。穴が開いたりしないよう、講師やスタッフが、子どもたちの声を聞きながら適宜手助けをする必要がある。



【ガラス絵のふしぎを知ろう】講師：濱井隆氏（～2017年）、林田薫氏（2018年）

*活動の目的

展示資料の描き方を学び、制作を体験することで、長崎の美術工芸への興味関心を高めることを目的とする。今回は江戸時代にヨーロッパから長崎に伝わった「ガラス絵」(ガラスの裏側に絵の具で描き、表から見るもの)を体験する。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時10分）
講師の紹介とこれらの活動について簡単に説明する。
2. ガラス絵について知ろう（2時10分～2時30分）
ガラス絵の歴史や描き方、使用する道具について、講師より説明を受ける。
3. ガラスに絵をえがこう（2時30分～3時45分）
5センチ角のガラス板1枚に絵の具を置き、もう1枚ガラスを合わせることで、色や模様の変化を楽しみ、「ガラス」に親しんだ後、ポストカードサイズのガラスに裏面から絵を描いていく。
4. 感想を書く（3時45分～4時00分）
スケッチブックに活動内容のプリントを貼り付け、今日の感想を書き込む。次回の日程を確認して解散。

*ふり返り

ガラスの裏側から絵を描いて、表の絵を見るという通常とは異なる絵の描き方に最初は戸惑う子どももいたが、仕組みを理解すると表面を確認しながら、楽しんで描く姿が見られた。また絵を描いた後に、爪楊枝などで部分的に絵を掻き新たな色を重ねたり、背景にポスターやチラシを貼り付けてコラージュ風にするなど、子どもたちが作品の変化を楽しんでいる様子も見られた。

ガラス絵は当館でも展示の機会は少なく、目にする機会は限られているが、作品の制作方法を体験することで、今後さまざまな美術作品の制作過程や材料への興味や関心が高まることを期待している。



【南画ってなあに?】 講師：田中正博氏

*活動の目的

江戸時代に中国から長崎に伝わり、日本に広まった「南画」という作品があることを知り、描き方を学びながら作品をつくることで、長崎の伝統文化への興味を高めることを目的としている。

スケジュール

1. 今日することのおはなし (2時00分～2時10分)
講師の先生の紹介と、これからの活動について簡単に説明する。
2. 「書道の作品を見に行こう」(2時10分～2時30分)
「南画」を描く時に使用する「墨」や「筆」「硯」を使って、どのような作品が描かれているのか、展示室を見学する。
3. 「南画」の描き方を練習しよう。(2時30分～3時30分)
まず講師の先生から「南画」の歴史や使用する道具について説明を受ける。その後、先生の描き方を見ながら、季節の花や野菜、富士山、だるま、地蔵などの子どもたちに馴染みのあるモチーフについて描き方を練習する。
4. 「色紙」に作品を描こう (3時30分～3時45分)
好きな作品を1点選び、色紙に「清書」する。
5. スケッチブックに記録する (3時45～4時00分)
活動内容のプリントを貼り付け、今日の感想を書き込む。講師の先生にお礼を伝え、次回の日程を確認して解散。

*ふり返り

最初は墨の濃淡を出すことが難しいようだが、墨一色でさまざまな絵を描く練習をすることで、面白さに目覚め、最後の色紙に清書する際はあまり悩むことなく、一気に仕上げる参加者も多い。参加者は小学校低学年から中学年が中心であるため、南画の歴史や道具について理解できる範囲は限られているが、描き方を学ぶことで、より身近なものとして感じてもらえるようである。長崎で受け継がれている南画について、子どもたちの認知度を高める良い機会であるため、今後も継続して活動を実施していきたい。



南画体験教室「南画ってなあに？」

長崎青房会会長
田中 正博

2005年秋に長崎歴史文化博物館が開館し、第3弾の企画展として「九州南画の世界展」が開催されました。日本南画の発祥の地といわれる長崎においても「南画」とはなんだろう？とよく分からない人が多くいます。まずこの展覧会の主題は、南画の歴史の解説、次に一般・小中学生を対象としたイベントとして作品を見ながら南画を学ぶ、といった入門教室、更に南画の基礎講座として講師が目の前で南画を描いている様子を鑑賞する。次に小・中学生の親子体験教室、また南画初心者のために展示されている南画を見ながらの学芸員による入門ギャラリートークによって構成されていました。

即ち、展示会場「南画」って何だろう？日本の南画発祥の地・長崎から南画を見る関連イベントとして南画入門教室（南画を知ろう・見よう・味わおう）からなっていました。

その翌年から今年まで、れきぶん子どもクラブ内で、小学生向けの「南画ってなあに？」というプログラムが実施されています。

南画ってなんだろう？（北宗画と南宗画）

中国古代の人びとの自然崇拜の精神から発達した絵画は、はじめ北方に栄え、次第に南方に伝えられました。北方の風土は、流れる川は濁り、樹木は少なく、風景は奇抜で雄大、そのために画法は豪傑で写実を大切に技法の大成を目的とした専門画家によって伝えられました。日本では墨一色によって心象を表す水墨画は禅宗の僧侶に愛好され、室町時代に日本的な水墨画が確立したと言われています。雪舟はその代表画家です。

一方南方は水は豊かで樹木は青く、風景は穏やかで田園は拓て人情も温順で親しみやすく、画法もその心を表現できればよしとして稚拙をもって第一とし、在野の画派として広く伝えられていました。日本では池大雅や与謝蕪村らによって開花されたと言われます。

これらの水墨画を、中国の画家でもあり評論家の董其昌(とうきしやう)(1555～1636)が唐の時代まで遡って、中国の禅宗に北宗と南宗の二宗があるように絵の世界にも北宗画と南宗画の二つの画風があると説き、文人（職業としていない者）の多くが南宗画を描いていることから、南宗画は文人画とも言われるようになりました。

江戸時代、鎖国日本で唯一の貿易港であった長崎にはさまざまな文物がもたらされ、その中の一つが南宗画でした。全国各地の文人墨客は長崎に学び、その技法を習得したことから長崎は南宗画の発祥の地と言われ、その伝統は200年余の今日まで守られています。

南画制作の楽しみ

南画は他の絵とちがって自己の心に写った絵即ち写意です。山水画であれば作者の理想郷を心に描き作画します。そこには高く聳える山（主山）があり、群峰を従え、霞をなびかせ、岩や道を、滝や川を、川には橋を掛け、やがて川は大河となって豊かに流れていきます。川には釣りをしている作者がいるかもしれません。また、作者の住まいは理想の場所に建てます。主木はどのような木にしようか、どこに配置しようか、三遠方を用いて構図を組立て、濃淡にも注意しながら気韻生動（気品があり生き生きとしていること）のある作品に仕上げていくところに楽しみを感じます。花鳥画の場合は、春夏秋冬その季節にどのような花を鳥を作者が求めているものが何かをはっきりと分かるように画面に余白を持たせ、没骨法（もっこつ縁取りをして書くもの）にしようか、鈎勒法（こうろく縁取り

はしない)か、彩色するかしないかいろいろ考えて構図を決めていきます。

成果と課題

れきぶんまなびのプログラム、れきぶん子どもクラブの「南画ってなあに？」の講座の内容は、まず長崎が南画の発祥の地であることの歴史的背景と、この伝統が200年後の今日まで受け継がれて描かれていることを簡単に説明した後、実技に移ります。

最初に実技に必要な「文房四宝」の説明、即ち紙・墨・硯・筆いずれも中国で発明されたことや、長崎県の対馬にもすばらしい硯（若田石硯）が生産されていることを説明していると、2時間では足りません。また現在小学校では一般的にプラスチック製の硯を使用し、墨を磨ることもなく、墨液なので特に文房四宝は詳しく説明します。

実技では、最も大切な濃淡の出し方を練習します。低学年の子どもには墨の取り方や線の引き方が難しいようです。

その後は墨に親しむために季節の花や「だるま図」「地藏さん」「富士山」季節ごとの野菜・果物等を描いています。南画の基礎である蘭・竹・菊・梅を取り上げるためには何回か継続的な練習が必要と考えられます。その後、長崎市文化振興課主催の「夏休み水墨画体験教室」や長崎市教育委員会主催、長崎国際文化協会が開催している「学校伝統文化（水墨画）体験教室」において南画の指導をしていますが、そこでたまにクラブ卒業の子供たちと出会うことがあります。伝統文化である長崎の南画を後生に残すためには今以上に近隣市町村の文化活動等あらゆる機会を通じて南画の発展のために更なる貢献をしていきたいと考えています。

(3) 企画展関連（博物館職員による指導）

【牛乳パックカメラをつくろう】

*活動の目的

「明治150年記念 写真発祥地の原風景 長崎」展（2018年5月22日～6月24日開催）関連企画。幕末以降の長崎で発展してきた写真の歴史にふれること、また、デジタル化される以前のカメラのしくみを知ること为目标とする。「篠山紀信展」関連企画では、撮影するテーマに着目したが、こちらは技術的な面に着目したプログラムである。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時10分）
現在博物館ではどのような展覧会をしているのか、またその内容にちなんでどんなものを作るのか、簡単に説明する。
2. 牛乳パックカメラを作る（2時10分～2時50分）
一人1つ1個の飲料パックを持参してもらう。スタッフが補助しながら、箱形カメラを制作する。
主な材料：洗って乾かした飲料パック、黒画用紙、トレーシングペーパー、
レンズ（ミニ双眼鏡から取り外したもの）
3. 日光写真を撮ってみよう（2時50分～3時50分）
2グループに分かれ、それぞれ3階ロビーと奉行所で2回撮影を行う。カメラの置き場所を決めて、コピー用紙をカメラに貼り付け、10分程度露光する。待っている間に展示室を見学する。露光が終わったら、講座室に戻り、コピー用紙をラミネーターに通す。
4. 今日の感想を書く（3時50分～4時00分）
カメラと撮影した写真の裏に、油性ペンで自分の名前を書いておく。

*ふり返り

常設展示内に展示されている、上野彦馬のカメラとおおよそ同じしくみのカメラである。デジタルカメラや携帯が身近にあり、写真や動画を撮ったり見たりすることには慣れている子どもたちだが、電池もないのに「景色が映る」ということに驚きながら、嬉しそうにカメラを覗く姿が印象的だった。予め材料の画用紙を切り分け、穴を空けるなどの準備はしていたが、予想よりも移動や撮影に時間がかかり、最後の感想の時間をゆっくり取ることができなかった。再度こどもクラブ内で実施する時には、もう少し子どもたちの手順を減らし、カメラ作りか撮影のどちらかに重点を絞ったほうが良いかもしれない。



【けいがの絵をスケッチしよう】

*活動の目的

「川原慶賀の植物図譜」展（2017年10月7日～11月26日開催）関連企画。江戸時代の長崎の画家である「川原慶賀」が描いた江戸時代の長崎の風景や風俗、植物図譜を見学し、当時の長崎について興味を持つとともに、植物図を模写することで、作品の細部まで観察し、作品の面白さに気づくことを目標とする。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時10分）
展覧会の内容と、お気に入りの作品を1点見つけて、模写する活動を行うことを簡単に説明する。
2. 『川原慶賀の植物図譜』展見学（2時10分～2時40分）
スタッフが作品について話しながら、展覧会を見学する。
3. お気に入りの植物図をスケッチ（2時50分～3時40分）
画板・画用紙・クーピーを配布。虫眼鏡を使って、細かい部分を観察しながら、気に入った展示物を模写する。
4. 絵のタイトルや感想を書く（3時40分～4時00分）
スケッチした画用紙に、タイトルや自分の名前を書いておく。スケッチブックに活動内容のプリントを貼り付け、今日の感想を書き込む。次回の日程を確認して解散。

*ふり返り

まだ歴史を学習していない学年が大多数を占めるので、見学の際は資料の説明ではなく、会話をしながら資料の面白さを話すよう心がけた。参加者は虫眼鏡を使うことで、植物図が精細に描かれていることに気づき、じっくり観察したり、模写したりと楽しんで活動する姿が多く見られた。また活動の始めに博物館のマナーについて確認した上で、一般のお客が多く見学している展示室の中で長時間活動することで、博物館のマナーについても意識せずに、身についていたようである。



【空とぶモビールをつくろう】

*活動の目的

「ジブリの大博覧会」(2017年4月15日～6月25日開催) 関連企画。展示の一部である「スタジオジブリの空とぶ機械達」のコーナーに注目し、アニメーションを制作する人の目線を想像するというを試みた。

スケジュール

1. 今日することのおはなし (2時00分～2時10分)
スタジオジブリを紹介(日本の会社で、みんなのよく知るアニメを作っていること)、また展示会の内容について簡単に説明する。
2. 映画の場面をみてみよう (2時10分～2時30分)
講座室のスクリーンを使って、「紅の豚」や「風の谷のナウシカ」の、「空とぶ機械」が登場する場面を鑑賞する。
3. モビールをつくろう (2時50分～3時50分)
映画に登場する乗り物を参考にしながら、「空とぶかたち」を考える。厚紙を土台にして、テープで羽根をつけるなど自由に作る。完成したら、つり下げられるようにテグスを付ける。
主な材料: カラー厚紙、画用紙、折り紙、テグス
4. 今日の感想を書く (3時50分～4時00分)

*ふり返り

クラブは土曜の開催だが、本展は週末の来館者数が非常に多かったため混乱を避けて、子どもたちを連れての展示見学は行わず、講座室内での活動となった。ジブリ映画に登場する「空とぶ機械達」は虫や鳥などに似た形が多いのも特徴的である。映像を見ながらその点に言及した上で、参考にしてもよいし、独自に設定を考えてもよいことにした。展示物をモデルにして予め厚紙を切ったものも用意しておき、希望者はそれも選べるようにした。魚や竜のようないきもの型から、ロケットや建物のような形まで、さまざまな「空とぶかたち」が誕生した。



【巻物に手紙をかいてみよう！】

*活動の目的

「没後150年 坂本龍馬」展（2016年12月17日～2017年2月5日開催）関連企画。展示の特徴として、龍馬が残した沢山の書簡が挙げられるが、現在の一般的な手紙とは異なり、それらが墨で和紙に書かれていることに注目する。昔の人になったつもりで手紙を書くこと、また、歴史や美術資料のかたちのひとつである卷子（巻物）のしくみを知ること目標とする。

スケジュール

1. 今日することのおはなし（2時00分～2時10分）
展覧会の概要、見どころなどを含めて簡単に説明する。
2. 坂本龍馬展をみてみよう（2時10分～2時40分）
当時のカメラや龍馬の遺品など、いくつかの資料をピックアップして職員が話しながら、みんなで会場全体を見てまわる。その中で、当時の手紙のかたちを観察する。
3. 手紙を書こう（2時40分～3時20分）
横長に切った和紙に、右から左へ読めるように、筆ペンで手紙を書いていく。親・友達・先生など身近な相手を思いうかべ、文字だけでなく絵を描いてもよいことを伝える。和紙の両端10cm程度は、何も書かず空けておく。
4. 巻物作り（3時20分～3時45分）
予め紐を付けておいた表紙を選び、手紙の右端にのりで貼る。左端に軸木を巻き付けて両面テープで固定する。任意で、題や名前を書き小さく切った和紙を貼り付ける。
主な材料：和紙、クラフト用の木製丸棒、千代紙、軸紐、筆ペン、クーピー
5. 今日の感想を書く（3時45分～4時00分）

*ふり返り

作り方は、夏休みイベントの「宝物のひみつ発見！」の内容を応用したもので、比較的スムーズに進んだ。子どもたちはアニメなどで「巻物」を目にすることも多く、その意味では見慣れたものだが、絵や文を書いた紙が初めにあって、後からその形に仕立ててあるという「ひみつ」は、新しい気づきなのではないかと思う。昔がそうであったように、墨で一発書きの緊張感を味わいながら、思い思いの手紙が完成した。



【カメラマンに挑戦！】

*活動の目的

「篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」(2016年4月9日～5月29日開催) 関連企画。写真家・篠山紀信が50年以上にわたり撮り続けたポートレートを鑑賞した上で、協力して人物の撮影に挑戦する。また、幕末に始まる写真の歴史や、長崎出身の写真家である上野彦馬についても知る。

スケジュール

1. 今日することのお話・篠山紀信展の見学 (2時00分～2時20分)
挨拶の後、職員がいくつかの作品を解説しながらみんなで展覧会を見学する。
2. 人物写真を撮ろう (2時20分～2時50分)
グループに1台デジタルカメラを持たせ、2階扉から外へ移動。イベント広場～奉行所玄関付近を撮影場所とし、表情やポーズ、場所などを提案し合いながら、順番に撮る。
3. DVD鑑賞 (2時50分～3時10分)
上野彦馬について長崎県が制作した映像(アニメ)を見る。スタッフは、撮った写真を紙にプリントしておく。
4. 撮った写真を選ぼう (3時10分～3時40分)
撮った写真の中から、一人2枚「ベストショット」を選んでもらう。自分の選んだ写真を紹介するとともに、友達の作品についてコメントし合う。
5. 上野彦馬資料の見学 (3時40分～3時50分)
常設展示室にある、上野彦馬に関する資料を見学する。
6. スケッチブックに感想を書く (3時50分～4時00分)

*ふり返り

「テーマを決めて撮る」ことに苦戦しながらも子どもたちは撮影を楽しんでおり、とくに高学年になると、構図にこだわってシャッターを切る様子も見受けられた。1～6年生の参加者のうち、誰も篠山紀信の名前を聞いたことはなかったのだが、これをきっかけに「人物の魅力」をうつし出すという、写真の一つの側面に改めてふれることができたのではないかと。また、撮影者の立場に立って、昔と今のカメラおよび写真を比較する機会にもなった。



れきぶんこどもクラブ 参加者アンケート集計結果

対象 2016・2017年度の参加者

送付数 78人

回収数 31人

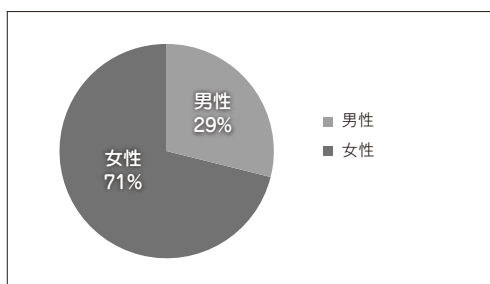
回収率 40%

【回答者のプロフィール】

◆性別

	集計結果
男性	9
女性	22

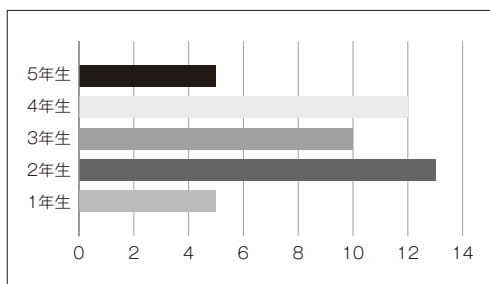
(N=31)



◆れきぶんこどもクラブへ参加したのは、小学何年生の時ですか？（複数回答可）

	集計結果
1年生	5
2年生	13
3年生	10
4年生	12
5年生	5

(N=31)

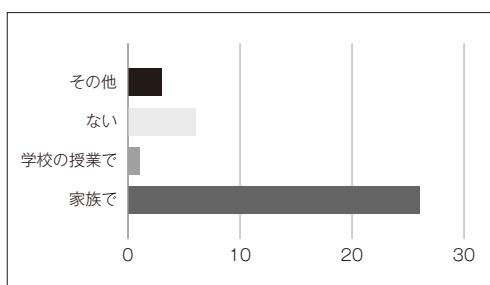


【アンケート結果】

Q1 (1) こどもクラブの活動が終わってから、博物館に来たことがありますか？（複数回答可）

	集計結果
家族で	26
学校の授業で	1
ない	6
その他	3

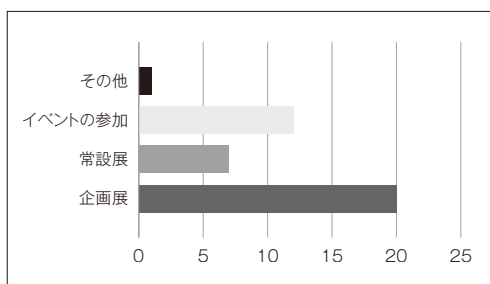
(N=31)



Q1 (2) 来たことがある人はどちらを見学しましたか？（複数回答可）

	集計結果
企画展	20
常設展	7
イベントの参加	12
その他	1

(N=31)



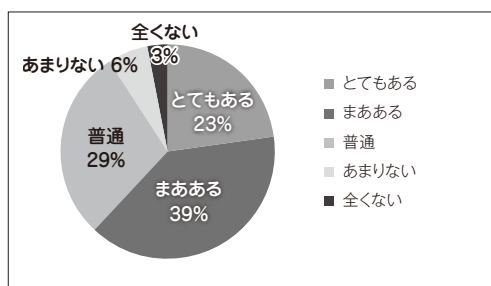
Q2 こどもクラブの活動をふりかえって、印象に残ったものはありますか？

- ・ 袴を着て豆まき
- ・ 展覧会をつくろう、ガラス絵
- ・ 粘土で何かをつくる、紙をつくる
- ・ 和紙作り、スケッチ
- ・ てぬぐいづくり
- ・ ステンドグラス
- ・ 現川焼の体験
- ・ 屏風づくり
- ・ 和紙作りを体験したこと、きれいにできた。
- ・ ガラスに絵の具で絵を描いたこと。
- ・ 粘土を使って器を作ったり、面白いモンスターを作ったりしたことが面白かったです。器はでこぼこになったり、少し難しかったけど、自分の想像通りにできあがりました。
- ・ 手ぬぐいにおくんちの絵を描いたこと。
- ・ 絵の具でガラスをはさんで、もようを作ったのが、印象に残った。
- ・ 普段出来ないようなことをたくさん体験することができたので良かった。

Q3 現在、長崎の歴史や文化について興味がありますか？

	集計結果
とてもある	7
まあある	12
普通	9
あまりない	2
全くない	1

(N=31)



その理由について

「とてもある」

- ・ 中秋祭やランタンフェスティバルなどのイベントが楽しいから。
- ・ 昔の人の暮らし、文化など。
- ・ 長崎の歴史をあまり知らなかったけど、ちょっとずつ知るようになったから。
- ・ 長崎の歴史はとても興味深いし、長崎には建造物などがたくさん残っていて、詳しく知りたいから。

「まあまあある」

- ・ おくんちに興味があるから。
- ・ 長崎くんちで太鼓山が好きだから。鎖国中でも長崎だけ貿易をしていたから。

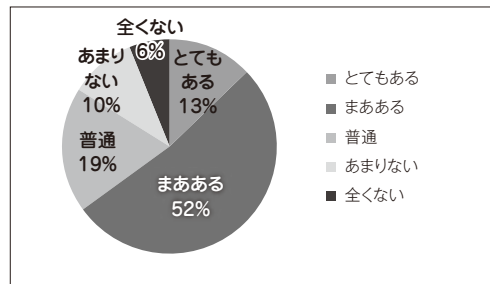
「ふつう」

- ・ 長崎は唐や他の国との歴史があるから。
- ・ 授業で習う長崎の歴史が面白くないから。
- ・ すごく興味を持つようなものが、歴史にあまりないからです。
- ・ 10月になるとおくんちを思い出します。
- ・ 学校で居留地について調べているから。
- ・ あまり意識がないから。
- ・ まだ小さいから。

Q4 現在、博物館について興味がありますか？

	集計結果
とてもある	4
まあある	16
普通	6
あまりない	3
全くない	2

(N=31)



その理由について

「とてもある」

- ・長崎の歴史、日本の歴史が好きだから。
- ・今しているイベントに興味があるから。
- ・博物館ではたくさんのことを学ぶことが出来るし、長崎の歴史をもっと知りたいから。

「まあある」

- ・恐竜とかレゴとか子ども向けのもあるから。
- ・企画展がおもしろいから。
- ・ジャパンビューティ展を見に行きます。
- ・自分が住んでいる長崎の歴史や文化を普段体験する機会がないから。
- ・ものづくりのイベントがある。
- ・今は気になる物などは、展示されていないけど、「次はどんな展示物があるのかな」などと気になるから。
- ・面白いことをやっているから。
- ・おもしろい企画展があるから。
- ・最近行っていないし、今、何が行われているか気になるから。
- ・何ヶ月かに1度、企画展があるから。

「ふつう」

- ・売店や企画展に興味がある。
- ・もっと子ども向けの企画だったら、楽しくなると思う。
- ・暇なときに行くから。
- ・最近博物館に行っていないから。
- ・いつも行っているから、特には特別に感じない。

「あまり」

- ・レゴや子どもクラブは楽しかったけど、最近の展示は大人向けなので、楽しそうじゃない。
- ・近くにないから。

「全くない」

- ・実際に長崎にいないから。
- ・今、近くにいないから。

れきぶん子どもクラブ 保護者アンケート集計結果

対象 2016・2017年度の参加者の保護者

送付数 65人（13組兄弟で参加）

回収数 31人

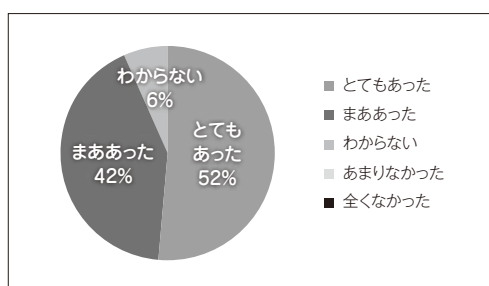
回収率 47%

【アンケート結果】

Q1 子どもクラブの活動は、お子様にとって良い効果があったと思いますか？

	集計結果
とてもあった	16
まああった	13
わからない	2
あまりなかった	0
全くなかった	0

(N=31)



その理由について

「とてもあった」

- ・日常では経験できないことを教えていただいた。また歴博で展示していただいたこともいい思い出になった。南画は大人もやってみたいと思った。
- ・長崎の文化をテーマにした作品を作れるので、長崎を知るきっかけになり、とても良かった。
- ・体験することがなかなかない作品をつくることができた。他の学校や年齢のことなるクラブの中で参加できたこと。
- ・ものづくりが好きなので、それを通して長崎の歴史文化についてもふれることが出来たと思う。
- ・視野が広がった。
- ・転勤族なので、長崎の特色など、地元の方にとっては当たり前すぎることを教えてもらえるのは楽しかったみたいです。
- ・巻物やガラス加工など家庭ではまずできない制作が、数多く経験できた。
- ・今までに体験出来なかったことを体験できたから。
- ・長崎の歴史や文化を実際に体験したことで、興味を持つようになりました。ありがとうございました。
- ・活動が終わった後、その日に学んだ事を調べてみたりして、興味を持つようになりました。ありがとうございました。
- ・家庭はもちろん、学校でも体験出来ない企画ばかりで、また知らない集団の中で活動することも、毎回緊張感があって良かったと思います。
- ・体験プログラムを通して、いろいろな文物や歴史にふれることが出来ました。

「まあまああった」

- ・楽しんで作業をやっていたようです。
- ・紙すきや陶芸など、めったに経験できないことができた。
- ・歴史博物館が身近に感じられた。
- ・他の学校の子もたちと一緒に活動できたこと。博物館の方やボランティアの皆さんと話したり、手伝ってもらったりしたことが楽しかったようです。
- ・長崎の歴史を知ることも出来て、作品づくりも体験することが出来るので、子どもにとっては良かったと思います。ガラス絵は今も部屋にかざっています。

- ・ 作ることや知ることに関心を持っているので、その子どもの欲求にあっていたから。
- ・ 長崎の歴史の変遷に興味を持てたり、博物館を身近な施設と感じられるようになったりしたと思います。
- ・ 毎回、活動内容を楽しそうに話してくれたから。

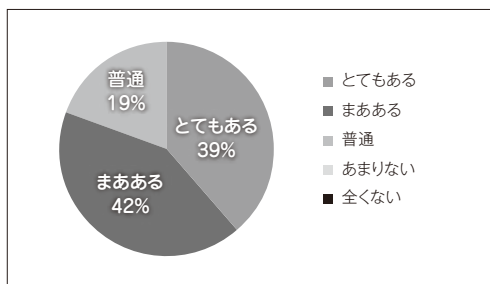
「分からない」

- ・ こどもクラブでめずらしい経験が出来て良かった。長崎のこと（おくんちなど）を知るきっかけとなった。夏休みなどこどもの休み期間に、イベントを多くして欲しい。もっと広報ながさきなどで宣伝して欲しい。

Q2 長崎の歴史や文化に興味はありますか？

集計結果	
とてもある	12
まあある	13
普通	6
あまりない	0
全くない	0

(N=31)



その理由について

「とてもある」

- ・ 長崎で生まれ育って、また子どもたちも同じように長崎で育っています。自分のルーツを知ることは、これから生きていく上で心の支えになると思いますので、こどもと一緒に学んでいきたいです。
- ・ 関東出身で結婚後長崎に越してきたので、和華蘭文化や長崎くんちなど、独自の文化が発達した歴史に興味があります。
- ・ 街のいたる所に、実は歴史があるということ、どのような歴史なのか知りたい。
- ・ 大好きな地元長崎のことはたくさん知りたい。長崎だから育った文化にも興味がある。
- ・ 長崎で育ちましたが、詳しく知らないため興味があります。知っておきたいという気持ちが最近あります。
- ・ 長崎の歴史や文化は奥が深く、学ぶことがたくさんあるから。
- ・ 理由はどう答えていいかわからない。
- ・ 数年は住むつもりなので。
- ・ 自分が生まれ育った土地だから。キリスト教に関連する物や、鎖国時代の西洋文化、明治近代産業や、平和に関する事など、どの時代をとっても他県とはちがう物があるから長崎の歴史は奥が深い。

「まあある」

- ・ 諸外国との交流があり、独特で面白い。
- ・ 明治以前に西洋の文明を取り入れる窓口として、重要な役割を果たしていたこと、身近な地域の歴史と国や世界との関係を知ることによって知識が広がる。
- ・ 観光客の人に長崎のことを教えてあげたいから。
- ・ 長崎から離れて改めて長崎の素晴らしさを実感しました。
- ・ 日本の文化について関心を持っている。おくんちを通して長崎にある古くからの物事にも興味を持っています。
- ・ 新聞やイベント等で古写真を見ると、町の変化が面白いからです。
- ・ 今は長崎の歴史や文化に触れる機会はあまりないから。

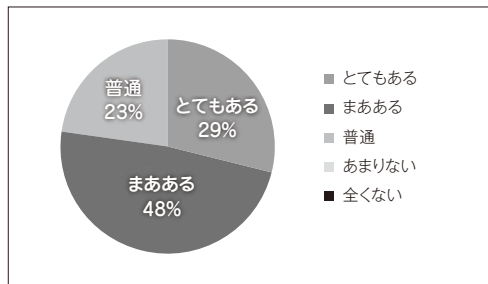
「普通」

- ・ あまり歴史にもともと興味がない、けれども、面白そうな企画があれば参加したい。
- ・ 現在子育て真っ只中で、仕事との両立を理由に、長崎の歴史にゆっくり向き合おうという気持ちあまり湧きません。時間に余裕が出来たときに、勉強したいと思います。
- ・ ずっと長崎に住んでいるので、意識することがあまりないです。

Q3 現在、博物館について興味はありますか？

	集計結果
とてもある	9
まあある	15
普通	7
あまりない	0
全くない	0

(N=31)



その理由について

「とてもある」

- ・茶道クラブに申し込みましたが、今回は選考から残念ながら漏れてしまいました。子どもたちにとって、日本の文化にふれられるいい機会ですので、また申し込みたいです。
- ・九州国立博物館その他を見るのが好きです。
元々美術館よりも博物館が好きで学芸員になりたかったくらいなので。
- ・若い頃、自分自身が博物館に勤務したことがあるので、体験型が増えて、今の子どもたちがうらやましいです。
- ・普段テレビでしか見られない珍しいものがたくさんあり、眼にも知識にも勉強になる。
- ・身近に感じている場所でのイベントなどは、身構えることなく参加しやすいから。
- ・長崎の歴史について、とても興味を持っています。

「まあある」

- ・楽しそうな企画展の時は、こどもと一緒に鑑賞させていただいています。ワークショップなども楽しみにしているのですが、大変だと思いますが、頑張ってください。
- ・立地・設備共によく行きたくなる。企画も興味深い物が多い。
- ・企画内容が「行きたい」と思うものが多い。建物もきれいで気持ちが良い。
- ・近所に住んでいるので、すぐいけるから。
- ・常設展・企画展のみならずドキュメンタリー映画の上映会や講演会なども行われているので、良いと思う。
- ・多くのイベントがあるので。
- ・次に何の企画があるのか気になります。車で行きやすいし、購買店も見えて楽しいです。
- ・いろいろなジャンルの企画展をされていて、足を運んでいるから。

「普通」

- ・あまり歴史にもともと興味がない、けれども、面白そうな企画があれば参加したい。
- ・音楽会などもあるので、楽しみです。
- ・今はどんな展示をしているのだろうと、ホームページを見るようになった。(見に行けないのが残念です。)
- ・興味のある展示物の時はあります。

れきぶん親子クラブについて

学芸グループ 出口 幹子

子どもから大人まで成長段階に応じた多様な年齢向けのプログラム展開をめざし、2011年度から2014年度にかけて、小学校高学年から中学生と保護者を対象に、展示室見学や体験など博物館内での活動と、史跡めぐりを組合わせた「れきぶん親子クラブ」というプログラムを実施した。

親子クラブを立ち上げたきっかけは、こどもクラブ参加者や保護者からの要望が大きかったこと。こどもクラブをはじめた当初は、小学生・中学生を対象にしていたが（現在は小学生のみ）、実際の参加者は小学1年生から4年生が大半を占めている。こどもクラブは作品づくりや体験プログラムを通して、長崎の歴史や文化に親しむことが目的であり、参加者の年齢層にあわせて、活動の中心はものづくりである。そのため、活動後に行う参加者や保護者向けのアンケートでは、「長崎の歴史や文化を詳しく知りたい」という要望が多くあがったこともあり、参加者の要望を受けて、こどもクラブの1つ上のステージとして立ち上げたものが親子クラブである。

親子プログラムの内容は、固定メンバー制で6回（2014年度は4回）の連続講座とし、活動は土曜日の10:00~12:00と設定した。内容は担当者とテーマに沿った内容で展示室をじっくり見学したり、市内の史跡めぐりや食や音楽に親しむなど、座学だけではなく体験も多く盛り込んだ内容とした。

はじめて実施した2011年度は「長崎に伝わる中国文化のヒミツ」と題し、展示室での見学や唐人屋敷での生活の様子を描いた絵巻物の読み解きを行い、歴史的な背景を理解した上で史跡を巡るといった活動を組み合わせ実施した。そのほか外部講師を招いて江戸時代に中国より伝わった「月琴」という楽器の演奏を体験したり、長崎に今も残る中国菓子などを食べたりと、文化にも触れる内容であった。

「今まで知らなかった長崎の歴史や文化について深く学ぶことができた」「担当者と繰り返し会うことで博物館がより身近な存在になった」など参加者の満足度は非常に高く、参加者の中には、活動後に図書館や博物館を利用したり、担当者と相談したりなど、より詳しく調べて夏休みの自由研究として提出した人もいた。連続講座に参加したことで、博物館との距離が近くなり、博物館を活用できる場として認識してもらえたことは、嬉しい効果であった。

参加者の満足度も非常に高く、成長段階に応じたプログラムの一つとして有効性を感じていたが、参加者数の少なさは悩みの種であった。4年間の活動中、最も多い時で4組の参加に留まったため、2014年度の活動を最後に、現在親子クラブは休止の状態である。参加者が伸び悩んだ背景としては「親子向け」の「連続講座」であったことが、参加へのハードルを上げた一つの要因ではないかと推測される。

現在、こどもクラブの次のステージは空白状態で、こどもクラブ経験者が参加できる教育事業は夏休みや企画展などの子ども向けプログラムが主となっている。成長段階に応じた多様なプログラムの展開を行うために、小学校高学年や中学生が魅力的に感じるプログラムを構築することが今後の検討課題である。



***活動実績**

2011年度 テーマ：長崎に残る中国文化のヒミツ

	開催日	内容	講師
第1回	4月24日(日)	長崎ならではの！中国のお寺	当館研究員
第2回	5月22日(日)	中国のお寺を見に行こう(町めぐり)	当館研究員
第3回	5月29日(日)	ちょっと拝見！唐人屋敷の暮らし	当館研究員
第4回	6月 5日(日)	流行の最先端「月琴」に挑戦！	長崎明清楽保存会長 山野誠之氏
第5回	6月26日(日)	唐人屋敷を見に行こう(町めぐり)	当館研究員
第6回	7月10日(日)	中国茶とお菓子でふりかえり	当館研究員

2012年度(前期) テーマ：幕末・明治の長崎にタイムスリップ

	開催日	内容	講師
第1回	5月12日(土)	幕末明治の長崎ってどんなところ？	当館研究員
第2回	6月 9日(土)	龍馬さんに会いに行こう(町めぐり)	当館研究員
第3回	6月23日(土)	写真師上野彦馬さんの仕事を拝見	当館研究員
第4回	7月14日(土)	居留地の暮らしを見てみよう	当館研究員
第5回	7月28日(土)	居留地を見に行こう	当館研究員
第6回	8月 4日(土)	ふりかえり&自由研究へのアドバイス	当館研究員

2012年度(後期) テーマ：長崎に残る中国文化のヒミツ

	開催日	内容	講師
第1回	9月22日(土)	長崎ならではの！中国のお寺	当館研究員
第2回	10月20日(土)	中国のお寺を見に行こう(町めぐり)	当館研究員
第3回	11月17日(土)	ちょっと拝見！唐人屋敷の暮らし	当館研究員
第4回	12月 8日(土)	流行の最先端「月琴」に挑戦！	長崎明清楽保存会長 山野誠之氏
第5回	1月19日(土)	唐人屋敷を見に行こう(町めぐり)	当館研究員
第6回	2月16日(土)	中国茶とお菓子でふりかえり	当館研究員

2013年度 テーマ：長崎に伝わったことはじめ

	開催日	内容	講師
第1回	5月11日(土)	長崎でどんなところ？	当館研究員
第2回	6月 1日(土)	Oi！(こんにちは)ポルトガル ポルトガルと長崎ことはじめ	当館研究員
第3回	6月22日(土)	ポルトガルとのつながりを見に行こう (町めぐり)	当館研究員
第4回	7月13日(土)	Hallo(こんにちは)オランダ オランダとのつながりを見に行こう (町めぐり)	当館研究員
第5回	7月27日(土)	オランダとのつながりを見に行こう (町めぐり)	当館研究員
第6回	8月17日(土)	ふりかえり&自由研究へのアドバイス	当館研究員

2014年度 テーマ：屏風の世界を探検しよう

	開催日	内容	講師
第1回	5月17日(土)	寛文長崎図屏風ってどんなもの？	当館研究員
第2回	6月14日(土)	長崎の名所についてしらべよう	当館研究員
第3回	7月12日(土)	長崎の名所を見に行こう	当館研究員
第4回	8月 2日(土)	ミニ屏風をつくろう	当館研究員

2. こども茶道クラブ

こども茶道クラブ

学芸グループ 松岡めぐみ

概要

お茶のいただき方・点て方はもちろん、和室での所作をふくめ、日本の文化にふれることを目的として当館が会場を提供する形で2015年度より開催している。当初は「れきぶんこどもクラブ」と同様に小学1～6年生を募集対象としていたが、難易度や指導の際の便宜のため、2018年度以降3～6年生に限定した。全7回の連続講座で、土曜日の14時から16時を活動時間としている。6月頃から月に1～2回のペースで基礎からお稽古を行い、第7回目の「親子でお茶会」での発表を最終目標とする。

主催：一般社団法人 表千家同門会長崎県支部

共催：長崎歴史文化博物館 定員：20名 参加費：3,500円（7回分）

*活動実績

	こども茶道クラブ		最終日 親子でお茶会 (保護者を含む)
2015年度	6月13日(土)～10月24日(土) 全7回	20名	37名
2016年度	6月11日(土)～10月22日(土) 全7回	24名	48名
2017年度	6月10日(土)～10月21日(土) 全7回	30名	64名
2018年度	6月30日(土)～10月27日(土) 全7回	24名	56名

茶道体験会		
2017年度	7月29日(土)	6名
	8月19日(土)	4名
	9月9日(土)	5名

*ふり返し

抹茶が大好きな子や、一度どこかで体験してもっと知りたくなったという子もいれば、よく分からないが保護者のすすめで来たという子まで、動機はさまざまである。しかし2年以上の継続参加も多く、2018年度は24名のメンバー中10名が前年に引き続き参加している。講師はすべて表千家同門会の所属の方で、多い時で一日に10名ほど来ていただいている。より効率の良い指導方法を目指して、事務長を中心に試行錯誤を続けてくださった結果、現在は、学年や経験に応じたグループごとにお稽古を行い、最後には全員並んでひとことずつ感想を言って振り返るという流れに落ち着いている。「前よりもできるようになった」「友達のお茶がおいしくて、すごいと思った」など、学んだことを確かめる時間があることで、より積極的に次のステップへ進むことができるのではないだろうか。まわりの友達からも刺激を受けながら、もっと上達したいという気持ちを強めていく子がとても多いように感じている。

床の間には毎回館蔵品の掛け軸を飾り、講師に準備していただくお菓子やお花とともに、ささやかに季節ごとの楽しみを添えている



が、子どもたちはあまりじっくり鑑賞する暇はなさそうだ。それほど熱心に、他の学校（学年）の子どもたち同士で話しながら、楽しくお稽古に励んでいる。（博物館ならではの利点ではあるので、後々展示を見に来た時でもこのことを思い出してもらえれば嬉しい。）

「親子でお茶会」では、一人ずつ順番に保護者のためにお茶を点て、お稽古の成果を発表する。初参加の子どもたちについては、レベルに応じて手順を省略する場合があるが、「ここまでではできた」という自信にもなるだろう。お点前をする亭主のほか、亭主の補助を行う半東やお運びの役割を全員が交代して必ず1回以上は行うことになっている。子どもたちは緊張しながらも、保護者たちの喜ぶ様子に、誇らしげな表情を見せてくれる。

今年度初めて実施したアンケート調査を見て、参加者の満足度はかなり高いといえる。中学生になってからもお稽古をしてほしい、という意見もしばしば頂くが、今のところはそのような予定はない。中学生になれば、大人に混じって学ぶことも難しくなくなってくるだろうし、実際に、講師から自宅近くの教室を紹介してもらって通い始めた子どもたちもいる。日程や会場、スタッフ等の現実的な問題もあるのだが、お茶と出会うきっかけ作りが我々の一番の使命と現在は考えている。

当館を会場として毎秋、表千家の「市民茶会」が開催されるが、昨年そこで、着物姿でお点前をする茶道クラブの修了生を見かけた。中学生になってからもお稽古を続けているらしい。また、初めの頃はお稽古中にふざけていたが、数年間のうちに雰囲気落ち着いて、真剣にお稽古に臨むようになった子もいる。しかし中には、向いていないと保護者が判断して継続を諦めたというケースもあった。その子は当時まだ中学年であったので、今後成長してからでも、機会が巡ってくればと思う。博物館での「出会い」を経て、このあとお茶の世界にどれくらい深く入っていくかは、それぞれで良いのだし、意識して覚えたことはもちろん、意識せず身に付いたこともどちらも少なくないはずである。

* 「茶道クラブ上級」「ひな祭り茶会」への発展

前期後期の2回、参加の機会がある「れきぶん子どもクラブ」とは異なり、茶道クラブは年に一回のみの募集で、10月の「親子でお茶会」をもって活動終了となる。クラブが始まって1年目（2015年度）は、次の機会を春まで待たなければならなかったが、講師の皆様からご提案をいただき、翌2016年度より、冬期にもう一度子どもたちの発表の場を設けることとなった。それが「ひな祭り茶会」である。クラブの経験者から希望者を募り、事前に数回のお稽古（茶道クラブ上級）を行っている。「親子でお茶会」と異なるのは、お客様が保護者や兄弟姉妹に限られず、一般の方にも当日参加が可能な点である。より本格的な形式で、場の緊張感も高まるが、お客様の様子を見ながら堂々とふるまう子どもたちの姿には成長が感じられる。



と異なるのは、お客様が保護者や兄弟姉妹に限られず、一般の方にも当日参加が可能な点である。より本格的な形式で、場の緊張感も高まるが、お客様の様子を見ながら堂々とふるまう子どもたちの姿には成長が感じられる。

* 活動実績

	茶道クラブ上級		最終日 ひな祭り茶会 (一般参加者を含む)
2016年度	12月10日（土）～3月4日（日）全5回	5名	53名
2017年度	12月26日（火）～3月3日（土）全4回	10名	80名
2018年度	1月19日（土）～3月2日（土）全3回	9名	46名

こども茶道クラブ 参加者アンケート調査結果

対象 これまでにこども茶道クラブに参加した子どもたち及び保護者

送付数 34人

回収数 20人（小学6年生以上10人、5年生以下10人）

(1) 修了生（小学6年生～中学生）

①こども茶道クラブへ参加したのは、何年生の時ですか？（複数回答可）

3年生	2
4年生	3
5年生	4
6年生	8

※小学6年生時に1年間参加が6名、
その他4名は2～4年間連続して参加

(N=10)

②現在は、茶道にふれる機会がありますか？

学校の部活で	0
学校の授業で	0
外部の教室	1
その他（小学校のクラブ）	1
今はないが、また始めたい	6
ない	2

(N=10)

③茶道クラブの活動をふりかえて、どう思いますか？

とても満足	9
まあ満足	0
普通	0
やや不満	1
とても不満	0

(N=10)

その理由

「とても満足」

- ・将来なにか役立つかもしれないから。
- ・初めてやって、とても楽しく、いい勉強になったから。
- ・夏休みにホームステイした時に、ホストファミリーにひろうして、お茶の点て方を教えることができたから。
- ・今まで茶道の経験がない人にもわかりやすく説明をしてくださって楽しくできたから。
- ・室町時代から続く日本の文化にふれることができ、礼儀作法が身に付いたから。

「やや不満」

- ・塾の予定が入って、あまり行けなかったから。

④お稽古やお茶会を体験した感想、または活動の中で印象に残ったことを教えてください。(抜粋)

- ・始めたころを思い出すと、まだまだ知らないことが多かった。ものすごく奥が深かった。
- ・人前でお茶を点てて少し緊張したけど上手にできてよかったです。またしたいです。
- ・市民茶会に出ることができて楽しかった。お茶・お菓子がおいしかった。
- ・クラブのおかげで私は、気軽に楽しく、茶道を始めることができました。また、このクラブのおかげで出会えた他学年の人、他の学校の人がたくさんいるので、参加して良かったです。お茶の飲み方などを学んで、半東

- さんの仕事が一番印象に残りました。方向を変えるときに少しななめに向くことなどがよくわかりました。
- お茶をたてるのが楽しかったです。
- 礼儀作法が身に付いたので、とても良い経験となったと思います。機会があればまた習いたいと思います。

⑤保護者への質問：茶道クラブの活動は、小学生のお子様にとって、良い効果があったと思いますか？

とてもあった	9
まあまああった	0
わからない	1
あまりなかった	0
全くなかった	0

(N=10)

その理由（抜粋）

- 日本の文化にふれることができ、興味を持ってくれてマナーの勉強（作法）ができて良かったと思います。
- 本番へ向けての練習と本番での緊張などで、落ち着きが出てきた。年々、上達しているのが見れた。
- 何事も早さや簡便さが求められる現代において、一服のお茶を丁寧に点てて心をこめるということを学ぶことは、日本の文化を継承する上でとても良い経験になると思います。
- 動作・ふるまいがきれいになった。
- 茶道が大好きになった。小学校のクラブでも茶道を選び部長をしていた。機会があれば本格的に習いたいと言っている。
- 態度にはまだ表れていませんが、学んだことはしっかり体で覚えていると思うので、いつの日か、目を見張るくらいさりげなく、素敵な立ち振る舞いをしている姿を見れる日を楽しみにしています。
- 茶道をとっても楽しみ、家でも抹茶を点ててくれます。日本の良い文化に親しむことができ、とても良い経験をさせていただきました。

⑥その他、保護者ご意見・ご要望など（抜粋）

- とても良い企画だと思います。ずっと続けて行ってほしい。中学に入学しても茶道は続けたいと本人は言っています。
- 学校で体験できないことをたくさんさせていただき、日本の文化や季節を和菓子で感じてみたりと家庭でもなかなか出来ない経験をさせていただきました。上の子は、急に土曜午後に塾が入ってしまい残念でした。
- 会費も高くなく、先生方も一流の先生方で、安心してお願いすることができました。
- 中学生になると部活動があるので忙しい日々ですが、単発の講座で教えて頂ける機会があるといいなと思います。

(2) 現在小学5年生以下の参加者

子ども茶道クラブの活動は、楽しかったですか？

とても楽しかった	7
楽しかった	3
ふつう	0
あまり楽しくなかった	0
楽しくなかった	0

(N=10)

その理由（抜粋）

- ・友達が増えたから。お茶をたてる動作が楽しかったから。
- ・みんなで、楽しく、お茶をおぼえたから。
- ・これまでお茶の飲み方などの細かいことは知らなかったけど、知ることができて良かったからです。そして、少しずつ、色々なことができるようになって楽しかったです。
- ・自分が点てたお茶を家族にあげるというのがはじめてだったから、うまくいくか心配だったけど「上手にたてられたね」と言われたので、ならっていてよかったなあと思います。
- ・茶道クラブをすることによってどんどん上手になっていくのが楽しかったです。

保護者のコメント（抜粋）

- ・回を重ねるごとに余裕が出てきて、お茶やお菓子の味を楽しめるようになってきたようです。小学校でも茶道クラブに入るなど、日常生活にもお茶の楽しさに触れることができるようになりました。
- ・お茶がきれいだったが飲めるようになった。
- ・他の学校のお子様との交流があり刺激になります。外国人との交流のときに、自分の文化について知っている事が多少なりとも自信になっているようです。
- ・茶道のことを知らなかった子供が、これを機会に興味を持ってくれたこと。量の上での所作を少しでも学べたこと。
- ・家での継続が難しい。
- ・伝統文化を学校以外の場で教わることができ、関心を高めていた様子だった。表千家の方々に、落ち着いた環境を作っていただき、毎回楽しみにしていました。
- ・最終日には子供の少し成長した姿を見られて良かったです。親子でのお茶会、こちらも緊張しましたが、良い雰囲気でした。



茶の湯を楽しむ

こども茶道クラブ これまでの4年間

一般社団法人 表千家同門会長 長崎県支部
事務長 太田 典子

利休居士が大成した茶の湯は、450年以上を経た現在でも日本の代表的な伝統文化として受け入れられております。その長い時間をかけて育まれた茶道の歴史、千家の伝統を受け継ぐ表千家では、昨年利休居士の命日にあたる2月28日に、不審庵十五代家元「千宗左」を猶有斎宗匠がご襲名され、お父上の而妙斎宗匠が隠居名である「宗旦」に改名されました。千家茶道の普及と継承に益々励まれることと思います。その表千家の茶の湯を、より多くの児童にもふれてほしいと、「茶の湯文化にふれる体験学習」として、全国支部に推奨しております。その一環で当支部では長崎歴史文化博物館のご協力の元、「茶の湯文化にふれる こども茶道クラブ」を先輩役員の方々が立ち上げ、31年度には5年目を迎えます。

年々応募者が多くなり、29年度は50名の申し込みがあり選出に苦慮致しました。全員を受け入れたいのですが、講師陣の確保の関係で難しく30名に止めました。しかし抽選に漏れた児童にも茶の湯とふれあってほしいと思い、茶道クラブの日の午前中を利用して体験会を3回開きました。参加者は10名程度でしたが、熱心にお茶と向き合ってくれました。又来たいと話してくれる姿に、講師陣は喜びを感じました。

こども茶道クラブの方は、前役員の協力も有り、4年目にもなるとカリキュラムも完成されてきました。講師陣も指導のやり方を議論し、如何にしたら生徒達が理解し、お点前が出来るようになるか進めていっております。受講生が市内各小学校の3年生から6年生まで居るので、下級生二班、上級生二班と分けて指導することにしました。7回コースの初めは、生徒達も緊張して大人しかったのですが、3回目以降になるとお互い友達になり、特に男子が騒々しく講師を困らせることもありました。割稽古の時、袱紗裁きは子供の小さな手では難しいのですが、何度も復習し一生懸命な姿も見せてくれました。最後の親子茶会では、緊張した面持ちで生徒達が、お点前を頑張って披露してくれました。お父さん、お母さんからお褒めの言葉を貰って、満足げな顔が思い出されます。毎回最後に感想を話してもらいますが、皆、口を揃えたようにお茶やお菓子が美味しいとか、もっと練習して先生みたいに上手になりますとか話して、講師陣を喜ばせます。

7回修了時には、京都家元へ申請した「習いのはじめ」を授与します。修了者は毎年11月に開催する表千家同門会長長崎県支部主催の市民茶会の子供席で、お運びやお点前のお手伝いをしてもらいます。お席が長崎歴史文化博物館のエントランスなので、オープンに見物出来るのもあって、来館された方々も、可愛い仕草のお点前やお運びに、目を細めて見入っておられます。これからもこの体験教室を継続して行き、多くの子供達が表千家の茶の湯を楽しんでくれることを願っております。



「習いのはじめ」授与



市民茶会 子供席

3. はくぶつかんのおはなし会

はくぶつかんのおはなし会

学芸グループ 出口 幹子

概要

「博物館は難しいし、子ども連れには敷居が高い」と感じている子育て世代は多いのではないだろうか。博物館＝歴史を学習する場というイメージが強く、当館の外観は長崎奉行所を復元しているため、特に入りにくさを感じる人も多いかもしれない。

当館では幼少期から、博物館が身近な存在であることを認識してもらうとともに、保護者には博物館では伝統的な行事を気軽に体験でき、子どもと安心して活用できる施設の一つであると認識を持ってもらうために、2006年の2月に「おはなし会」という活動を開始した。

「おはなし会」は季節の伝統的な行事にあわせて、幼児から小学校低学年までの児童と保護者を対象に、行事にちなんだお話の読み聞かせと簡単なものづくりを行うもので、読み聞かせは当館の業務支援ボランティアが担当し、ものづくりは教育普及担当職員とボランティアが協働で行っている。読み聞かせは絵本や紙芝居が多かったが、最近では長崎に関連したお話も多く登場するようになっている。またものづくりでは、子どもたちがある程度自分たちで作れて、難しいところは保護者が手伝えるような作品を心がけている。

当館の常設展示室では、「長崎の暮らし」というコーナーの中で、商家の家を一部再現した「町屋」という場所があり、季節の行事にあわせて、料理や飾りの再現展示を行っている。伝統文化について子どもにも分かりやすく理解してもらえるように、町屋の見学もあわせて行うこともある。



*実績 (2017年度)

行事	開催日	つくるもの	参加者
端午の節句	5月 5日 (金・祝)	こいのぼりづくり	21名
七夕	7月 1日 (土)	七夕かざり	28名
河童忌	7月24日 (月)	かっぱのスケッチ	7名
くんち	9月30日 (土)	くんち手ぬぐいづくり	40名
正月	12月16日 (土)	お正月あそび	20名
節分	2月 3日 (土)	鬼のお面づくり	16名
桃の節句	3月 3日 (土)	ひなかざりづくり	16名

なお、河童忌は芥川龍之介の命日である。当館では毎年芥川龍之介作の「河童凶屏風」を夏休み期間中に展示するため、河童の絵本などの読み聞かせと作品を見ながらスケッチする「おはなし会」を実施している。

一度参加すると続けて参加したり、友人を誘ったりする親子も多く、親子にとって博物館が安心して活用できる施設の一つと認識される良い機会となっている。参加者の中には、小学生になると、次のステージである「れきぶんこどもクラブ」に継続して参加する事もあり、子どもの成長段階に応じたプログラムが展開できているのではないだろうか。

しかしながら、一般的には博物館で子ども向けのプログラムがあることはあまり周知されていないように感じる。どのようにすれば、子育て世代に情報が届くのか、今後検討が必要である。「おはなし会」に参加することで、博物館がより身近な存在となっていくよう、今後も活動を継続していきたい。

ボランティアスタッフの声

おはなし会の活動について

業務支援ボランティア
間瀬 美保・石神いつ子・吉村 結子
(聞き取り・文 松岡めぐみ 2019年2月2日)

*おはなし会に携わるきっかけ

開館当初、当館で読み聞かせを行うボランティアの募集に応じたのがはじまり。紙芝居の制作や、読み聞かせの際の演出などを協力して行っている。

*読み聞かせについて

おはなし会が始まった頃は毎回絵本を使用していたが、4年ほど前から、半分以上の回で「パネルシアター」を導入している。(フェルト等の毛羽立ちのよい布を張ったボードをスクリーンのように使用して、不織布製の絵人形を貼ったり、語りに合わせて移動させたりしながら、お話を進めていくというもの。)兄弟姉妹で一緒のことも多く、子どもといっても乳幼児から小学生まで幅広い。そのため大人数でも鑑賞しやすく、小さな子でもイメージをつかみやすいパネルシアターは重宝している。それに時々、絵人形を貼ったりするのを子どもにさせてあげると、喜んでくれる。



当初は隣接する県立長崎図書館からパネルシアターのセットを借りていたが、のちに(教育普及の予算で)同じものをいくつか購入した。その他、長崎に伝わる昔話や民話を参考に、台本やイラストから作ったものもある。完成してからも、「あれ?」と思ったら動作や台詞を改良していく。開催日の前には練習しながら、表現を変えてみたり、他のボランティアスタッフに見せて、感想を聞いたりもする。子どもに伝わりやすいように言葉を変えるところもあれば、変えないほうがいい古い言葉もあると思うので、そのあたりを吟味している。

*ものづくりについて



親子で一緒に作るというのが良いと思う。土台だけこちらで準備しておいて、ある程度参加者が自由にアレンジできるようなものと理想的。たとえばこの日は「節分」の回で、鬼のお面を制作したが、参加していたお母さんの一人が、毛糸を輪にしてお面の上部に貼り付けていた。「お部屋に飾れるように」ということで、素敵なアイデアだった。同じ材料でも、出来上がりはみんな違ってくるのでおもしろい。

子どもが集中力をなくして、歩きまわったりすることもあるが、スタッフの目があれば、ある程度はお母さんも手元に集中してもらうことができる。家族や幼稚園の人以外とふれあう機会も減っているし、少しの間私たちが子どもの面倒を見るのを、悪いと感じなくてもよいと思う。

*めざしていること

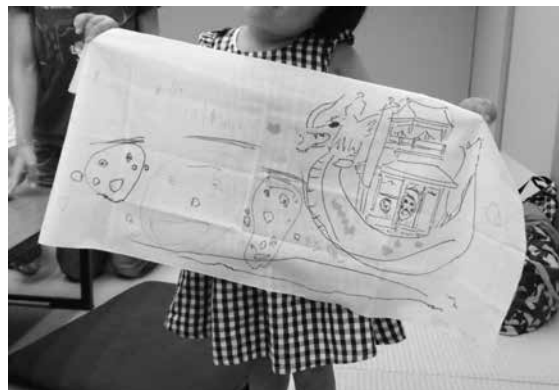
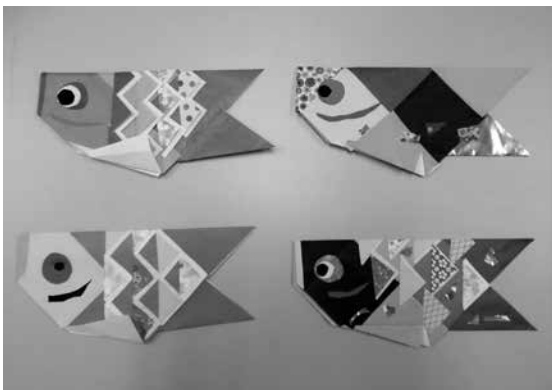
何よりも、親子が喜んで帰ってくれること。読み聞かせの定番（例えば「ももたろう」のような昔話）ではなくて、幼稚園でもあまり聞くことのないお話を聞いて、こんなお話が長崎にあったのかあと知ってもらおうこと。常設展示室の町屋に飾られている、季節ごとのお料理や、端午の節句の時、イベント広場に登場する大きな鯉のぼり…まだ小さなお子様がいるお母さんは、博物館に行く機会がそれほど多くはないと思うので、この時期にこういうものを一緒に見るということ。他の場所でもできることや聞けることよりは、やっぱり博物館ならではの要素を入れたおはなし会にしたい。気をつけているのは、第一に子どもたちが安全に過ごせること。この場で初めて使う道具や素材もある。怒らないけど、危ない時には注意をする。工作も基本は自由に作っていただいて、困ったら私たちに声をかけてもらいたい。

*これからのことについて

ここ2、3年は、同じお話をローテーションしているのでも、できればそろそろ新作を作りたい。できるだけ身近な、長崎市内に伝わるお話で、季節に合ったものだとお良い。くんちが題材のおはなしがあったらいいかも。現在は太田大八さんの絵本「ながさきくんち」を読んでいるけど、パネルシアターで演じられるお話を作れないか。教育普及担当の職員と協力して、考えてみたい。市内中心部に住む子でも、くんちを見慣れているように見えて、意外と知らない部分は多いから。

それに、おはなしの引き出しが沢山あれば、低学年向けのアウトリーチ活動にも応用できるのではないだろうか。パネルシアターは、何度か練習すれば誰でもできる。私たち自身も楽しみながらやっているし、これからも続けたいが、新しいメンバーが入って来てくれたらとても嬉しい。

制作例



4. れきぶんの夏休み

れきぶんの夏休み

学芸グループ 古豊裕次郎

概要

夏休みに子ども向けイベントや講座、ワークショップを行っており、多くの方に足を運んでもらい少しでも博物館や長崎の歴史や文化に興味関心を持ってもらうことを目的としている。れきぶん子どもクラブや子ども茶道クラブのような連続講座と違い、単発イベントにしており、数は少ないが遠方の方も参加しやすくなっている。開館当初は夏休み期間中にいくつかのワークショップや夏まつりを行っていたが、現在では夏まつりを始め博物館を探検するナイトミュージアム、自由研究の参考として資料の取り扱いが体験できる宝物のひみつ発見！などの講座、べっ甲細工や長崎刺繍、佐世保独楽の絵付けなど長崎の伝統工芸体験、長崎ペンギン水族館のご協力によるペンギンのふれあいイベント、その他にもサマーコンサートなど、幅広い内容で、毎年「れきぶんの夏休み」というパンフレットに情報をまとめて広報を行っている。



佐世保独楽絵付け体験後の
独楽まわし体験



ペンギン水族館がやってくる!



れきぶん1日館長
(長崎ペンギン水族館のヒミちゃん)

*ふり返り

夏休みイベントの中でも特に伝統工芸体験には、毎年多くの応募が集まる。場所や道具数の関係で定員が限られており、抽選に落選する方も多い。できるだけ多くの方に参加していただけるように日数や回数を増やし、同じ方に当選が集中しないように注意している。夏休みの宿題、特に工作作品を作るために博物館のワークショップを利用する方が非常に多いようである。宿題を提出する方に保護者も意識が向いており、本来の目的である博物館や長崎の歴史や文化に興味関心をもってもらう部分に少しでも振り向いてもらえるよう夏休みイベントチラシの工夫を行った。講座、体験、ワークショップなどカテゴリー別にし、このイベントは自由研究におすすめなどより分かりやすく表示するようにしたところ、体験講座の申込が少しずつ増えてきた。夏休みは多くの方に来館していただいているので、参加者の声を聞きながら様々な体験や経験ができる機会を今後も作っていきたい。



手ぬぐいのしぼり染め体験



ステンドグラス体験



三味線をきいてみよう!

【れきぶんナイトミュージアム】(2016年度の事例)

*活動の目的

普段は見るできない夜間の博物館を探検し、いつもとは異なる目線で展示を見ることを通し、より深く当館の魅力を知ってもらおう。見学マナーを身につけるとともに、博物館への理解を深める。また、親子一緒に活動することでコミュニケーションを促す。

参加費：大人500円／小中学生無料 対象：小中学生の親子

場所：常設展示室・バックヤード 定員：60名

スケジュール

受付

探検バッグ（ワークシート・鉛筆）、懐中電灯、参加証を渡し、ホール内へ案内する。

1. オリエンテーション（19時30分～19時40分）

受付終了を確認し、館内の照明を消す。

参加者へ全体の流れについて説明し、安全のための注意事項等を伝える。

2. 常設展示室・バックヤードの見学（19時40分～20時50分）

下記の通り3グループに分かれて館内を巡る。

A班：バックヤード（書庫前室、展示準備室、収蔵庫前室、荷物用EVなど）

→奉行所ゾーン

→歴史文化展示ゾーン（特集展示室「伊東マンショ展」を含む）

B班：奉行所ゾーン

→歴史文化展示ゾーン

→バックヤード

C班：歴史文化展示ゾーン

→バックヤード

→奉行所ゾーン

3. ホール集合（20時50分～21時00分）

ワークシートの答えを確認。懐中電灯と探検バッグを回収、お土産を配布して解散。

*ふり返り

ナイトミュージアムは、2013年度より夏休みイベントとして毎年恒例となっており、開催中の展覧会関連イベントとして実施する場合も多い。2016年度は、「日伊国交樹立150周年記念事業 特別公開『新発見! 天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像』」展にて特集展示室（常設展示室内）に展示中であった、マンショの肖像画を紹介する内容となった。本展ならではの演出として、体験コーナー用に職員がフェルトで作成した帽子とひだ襟、及びれきぶんこどもクラブの際作った「南蛮マント」を活用し、実習生の一人にマンショ役で登場してもらった。暗い展示室内に突然現れ、自己紹介とクイズのヒントを言って去っていく謎の人物にどよめきが起こったが、歴

史上の人物に親しみを持ってもらうきっかけとなったのではないだろうか。

参加者の中には、昼の博物館をよく知っていても、電気が消えていると急に怖くなり泣いてしまう子ども何人かはいる。しかし大半の子はしだいに慣れて、自ら色々なところを懐中電灯で照らして観察する姿が見られた。保護者も「子どもの普段見られない姿を見た」と微笑ましい様子である。絶対に一人で行動しないですね、と必ず始めに話すようにしてはいるが、油断は禁物だ。多人数での活動で、いっそう安全面に配慮しなければならない分、人手も必要になる。そこで、長崎大学教育学部の「蓄積型体験学習」の実習生たちにも、準備や活動中の補助をお願いしている。（※当館では毎年6月～12月にかけて4年生を5～10名ほど受け入れている）幼稚園や小中学校の教員免許取得を目指している学生たちは、子どもの対応も上手で助かっているが、緊急時にも我々が的確な指示を出せるよう、その年ごとにしっかり計画を練っておかなければならない。



*参加者のコメント（これまでのアンケートより抜粋）

- ・暗くて何があるかわからなくて楽しい。(小4)
- ・べっ甲をライトで照らすとすきとおって見えた。キラキラして印象に残りました。(小4)
- ・クイズが楽しかったです。また来てみたいです。(小2)
- ・夜のれきぶんもいろんなみりょくがあってよかったです。(小4)
- ・昼に来たときよりも、冒険ぼくって楽しかった。書院に入ると、みんながなんとなく正座をしていたので、やっぱり日本人だなと思った。(小5)
- ・サメ皮、砂糖袋、まそ様、書院、昼間見るのと全然違いました。(小5)
- ・人がいなくて楽しかった。(中2)
- ・べっ甲や奉行所は、暗くてよく見えなかったなので、また昼に来たいと思います。(保護者)
- ・暗い中では、見える物に意識が集中してとても興味深く見られました。(保護者)
- ・長崎奉行所の部屋があるなど始めて知りました。おみやげうれしい！（保護者）

*これまでの実績

イベント名	開催日時	開催概要	参加者
企画展「シーボルトの水族館」 関連イベント 奉行所ナイトミュージアム	2007年8月10日（金） 19:00～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：親子ペア2,000円	63名
れきぶん ナイトミュージアム	2009年7月25日（土） 19:00～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：親子ペア1,000円	57名
れきぶん ナイトミュージアム	2010年7月30日（金） 19:00～21:00	場 所：龍馬伝館・常設展示室・ バックヤード 参加費：親子ペア1,000円	73名
れきぶん ナイトミュージアム	2011年7月30日（土） 19:00～21:00	場 所：バックヤード他 参加費：親子ペア1,000円	44名
企画展「恐竜展2013」 関連イベント 恐竜展 ナイトミュージアム	2013年8月24日（土） 19:00～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：親子ペア1,500円	108名
企画展「恐竜展2013」 関連イベント 恐竜展 ナイトミュージアム パートⅡ	2013年 10月12日（土）、 13日（日） 18:30～20:00	場 所：企画展示室 参加費：一般1,000円/高大生700円/ 小中生500円 （ファミリーチケット） 一般+高大生 1,350円/ 一般+小中生 1,250円	(10/12) 44名 (10/13) 50名
企画展「おぼけ屋敷で科学す るlin長崎」 関連イベント ナイトミュージアム	2014年 7月21日（月祝）、 8月10日（日） 19:30～21:00	場 所：常設展示室 参加費：大人1,200円/小中学生800円	(7/21) 59名 (8/10) 46名
企画展「PIECE OF PEACE 『レゴ®ブロック』で作った 世界遺産展 PART-3」 関連イベント ナイトミュージアム	2015年 7月19日（日） 8月22日（土） 19:30～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：1組1,500円	(7/19) 62名 (8/22) 52名
れきぶん ナイトミュージアム	2016年8月7日（日） 19:30～21:00	場 所：常設展示室・バックヤード 参加費：大人500円/小中学生無料	53名
企画展 「チームラボアイランド 学ぶ! 未来の遊園地in長崎」 関連イベント ナイトミュージアム	2017年8月18日（金） 19:30～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：大人1,400円/高校生1,000円/ 中学生800円/小学生700円	43名
れきぶん ナイトミュージアム	2018年8月17日（金） 19:30～21:00	場 所：企画展示室・常設展示室 参加費：大人1,000円/高校生700円/ 小中学生500円	49名

【宝物のひみつ発見！】

*活動の目的

夏休みの自由研究にもおすすめしているプログラム。博物館が収蔵している宝物には色々な形態があることを知り、特に掛け軸と巻物のしくみや基本的な扱い方を学ぶ。それを通して、博物館そのものや、長崎に残る文化財に親しみを持ってもらうことを目的とする。また、それらを展示する博物館側の視点で、見る人に向けられた工夫について紹介する。

参加費：300円 対象：小学4年生以上 場所：2階立山亭

定員：まきもの編・かけじく編 各12名（2018年度）

スケジュール ※午前中開催時の例

1. あいさつ・今日の流れについて（10時00分～10時05分）
2. 常設展示室の見学（10時05分～10時20分）
「中国との交流」コーナーや特集展示室など、巻物や掛け軸が展示されている場所を職員が案内し、展示にどのような工夫があるのかを解説する。「本紙」や「巻緒」など部分の名前を紹介し、ワークシートの空欄に鉛筆で書き込んでもらう。
3. 巻物／掛け軸の扱い方の説明と体験（10時20分～11時00分）
和室に戻り、使う道具（卦算^{けさん}、矢筈^{やはず}、自在）を紹介する。巻物についてはひとりで見る時の方法と展示の仕方、掛け軸については掛け方・しまい方を説明（実演）する。
複製資料等を実際に手にとってもらい、一人ずつ順番に実践する。
4. ミニ巻物／掛け軸作り（11時00分～11時50分）
体験の順番を待っている間に作り始める。
主な材料・画材：和紙、千代紙、クラフト用の木製丸棒、軸紐、水彩色鉛筆、筆ペン（黒・カラー）
5. アンケート記入（11時50分～12時00分）

*ふり返り

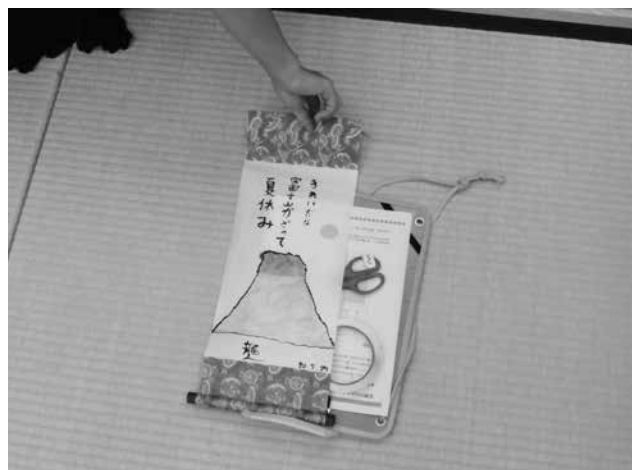
2016・2017年度開催時は、2時間内で掛け軸・巻物の両方について解説及び体験を行い、後半で制作するものをどちらか1つだけ選んでもらっていた。この方法では二つを見比べることができるというメリットもあるが、参加者が多くなると、体験の時間を充分にとれないおそれもあり、実際に他の参加者を気遣って遠慮する子どももいた。そのため2018年度は、子どもたちが一人ずつ作品にふれる時間を長めにとれるよう、定員を減らし「かけじく編」「まきもの編」の2回に分けて開催することにした。



展示見学の際には、本紙の絵や字だけでなく周りの部分(表装)にも違いがあり色々な素材が使われていること、壁面の展示では中心の高さを見やすく揃えるためにワイヤーの長さを調節していること、卦算を使って巻物の見せたい部分を固定して展示していることなどに注目してお話した。また、子どもたちが聞くだけにならないよう、気になったことがあればその都度話してもいいと声をかけた。会話をしながら細かい部分をよく見た後に、子どもたちに実物を持ってもらおうと、目を輝かせて積極的に取り組む様子が見られた。

作品作りについては、紙に絵や字を描くことだけでもそれなりの時間が必要になってくる。どちらかというと体験の部分に重きを置いて、材料の千代紙や和紙、棒などを事前に切り分け、ある程度組み立てたものを人数分用意しておく。当日子どもたちが行うのは、表装の部分を両面テープで本紙に貼りつけるところだけで、準備には比較的手間がかかるが、ボランティアや実習生の協力を得てこれまで行ってきた。

普段の小学生向けの講座は、「博物館の宝物」に描かれた内容そのもの、あるいはそれが持つ歴史的なエピソードを切り口に進めていくことのほうが多い。本イベントは、作品鑑賞においては見過ごしてしまうこともある美術や歴史資料の「かたち」に注目してもらう機会となっている。これまでの参加者の中には、「家に掛け軸があるので、さわれるようになりたい」という子どもたちも複数おり、帰る頃には「これで家でもできる」と満足そうな様子だった。部分の名前を覚えたり、家で鑑賞する時の方法、あるいは博物館に展示する際の工夫を聞いたりしながら、宝物について「もっと知りたい」という積極的な気持ちが子どもたちのなかに生まれてくれればと思っている。今後も改良しながら継続していきたいプログラムの一つである。



2017・2018年度参加者アンケート調査結果

イベント終了後、任意で参加者に記入していただいた。

回収数 2017年度 10人

2018年度 19人

(1) 学年

小4	13
小5	8
小6	8

(N=29)

(2) 博物館へ来るのは何回目ですか？

はじめて	4
2回目	2
3回目	4
4回目以上	19

(N=29)

(3) 今日の体験はいかがでしたか？

とても楽しかった	24
楽しかった	4
ふつう	1
あまり楽しくなかった	0

(N=29)

(4) また博物館のイベントへ参加したいと思いますか？

また参加してみたい	26
わからない	3
参加したくない	0

(N=29)

(5) 今日の感想や、工夫したところがあれば、おしえてください（抜粋）

2017年度

- ・巻物や、掛け軸には、たくさん名前があることが分かってびっくりしました。(小5)
- ・巻物と掛け軸どちらを作るか迷ったけど、巻物にして、作るときに絵をきれいにかくのをがんばりました。掛け軸をかけるのが大変でした。(小4)
- ・掛け軸のかけ方などがよく分かった。またこの体験があったらしたいです。(小6)
- ・にじむのを利用して字を書いたところ。掛け軸や巻物に、開き方があることを知った。(小6)
- ・巻物や掛け軸はおもしろいかな？と思ったけど、説明をきくと楽しいなと思いました。また来てみたいです。(小5)

2018年度

- ・色鉛筆で書いた所は、水をつける前とつけた後で色が変わったのでおもしろかったです。(小5)
- ・自分で巻物を作る体験ができてうれしかった。(小5)
- ・巻物の工夫が分かって、とてもおもしろかった。(小4)
- ・もう少し内容を考えて充実した巻物をつくりたい。(小6)
- ・掛け軸のかける時としまう時のやり方が分かって、今度母の実家でやろうと思いました。(小4)
- ・いい作品ができたのでよかったです。ちょっと失敗してしまったところもあったけどたのしかったです。(小5)
- ・掛け軸のことにあまり興味はなかったけど、参加してみて興味がわいてきた。(小6)

5. 孫文・梅屋庄吉ミュージアム の取り組み

孫文・梅屋庄吉ミュージアムの取り組み

長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム
板倉 加奈

概要

長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアムは、国指定重要文化財の「旧香港上海銀行長崎支店」を活用した博物館である。ミュージアムでは長崎が日本の近代化に果たした役割や、居留地の歴史、中国革命の父・孫文と長崎生まれの実業家・梅屋庄吉の国境を越えた友情とその功績について学べる。

長崎歴史文化博物館の分館として、2014年にリニューアルオープンしたミュージアムであり、はじめて訪れたという来館者が大多数である。初年度より、館そのものや展示内容について興味を持つきっかけとなればと考え年間を通して複数のイベント期間を設け、ワークショップ等を実施している。

また当ミュージアムの展示内容は、小中学生にとって資料を読み解き、内容を深く理解するには難しいと言わざるを得ない。その手助けとして見学プログラムを用意している。小規模なミュージアムながらも複数のテーマで展示されており、それぞれに魅力が詰まっている。未就学児から大人まで博物館を訪れるすべての人に、主体的な学びを通じて新たな発見があれば嬉しい。来館される目的や年齢に応じてプログラムを自由に選び、楽しく学習していただければ幸いである。



*実施内容

子ども向け見学プログラム：自由見学の他に下記プログラムの組み合わせによる見学が可能。

1. ガイダンス

ミュージアムをはじめて訪れる子ども向けに、館の概要や展示の見どころや見学マナーについて説明する。1階ホールにて長崎の近代交流史が学べる映像（15分程）も視聴可能。

2. 展示室ツアーガイド

常設展示室をボランティアやスタッフが解説案内する。希望に応じてテーマの設定可能。

3. ワークシート（学習シート・クイズラリー）

内容やポイントを簡潔にまとめた展示見学を補助するワークシートの利用。ワークシートの内容は見学時間や目的に合わせて変更も可能。

2018年度開催イベント

	イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
ほんしゃんの夏休み	ナイトミュージアム	2018年 7月28日(土) 8月11日(土)	場所：全館 参加費：一般300円 小中学生150円	97名
	中国切り絵体験	2018年 7月21日(土)～9月2日(日)	場所：1階多目的ホール 参加費：無料	211名
	香港上海銀行をつくろう	2018年 8月4日(土) 11日(土) 18日(土)	場所：1階多目的ホール 参加費：100円	27名
	～こころを結ぶ～ 友情の梅むすび	2018年 8月5日(日) 12日(日) 19日(日) 26日(日)	場所：2階応接室 参加費：300円	70名
	夏休みクイズラリー	2018年 7月21日(土)～9月2日(日)	場所：常設展示室 参加費：無料	284名
まつり 居留地	居留地で宝探し!	2018年 9月15日(土)～9月17日(月祝)	場所：常設展示室 参加費：無料	92名
	中国切り絵体験	2018年 9月15日(土)～9月17日(月祝)	場所：1階多目的ホール 参加費：無料	37名
友情月間 孫文・梅屋庄吉	友情月間 クイズラリー	2018年 11月1日(木)～11月30日(金)	場所：常設展示室 参加費：無料	446名
	中国切り絵体験	2018年 11月1日(木)～11月30日(金)	場所：1階多目的ホール 参加費：無料	83名
	梅むすび体験	2018年 11月毎週火曜日・水曜日	場所：1階多目的ホール 参加費：無料	12名
フェスティバル 長崎ランタン	中国切り絵体験	2019年 2月5日(火)～2月19日(火)	場所：1階多目的ホール 参加費：無料	60名
	ランタン クイズラリー	2019年 2月5日(火)～2月19日(火)	場所：常設展示室 参加費：無料	93名

本年度は夏休み期間に「ほんしゃんの夏休み」と題して複数の体験プログラムを実施した。ナイトミュージアムは閉館後に貸切で開催する為、通常見学では実施が難しい取り組みが可能になる。例年テーマを変えて実施しているが、本年度は予定を超えた集客があった。

切り絵体験や貯金箱作り、梅むすび体験等の工作系は夏休みの宿題としても喜ばれた。時間いっぱいまで納得いく作品を作り上げようとする子どもたちの集中力は素晴らしく、完成した作品を前に多くの笑顔を見ることができた。親子での参加にしたことで、子どもと一緒に手を動かし、展示鑑賞する機会が持てたことが良かったとの声も多くいただいた。

居留地まつりには地域との連携事業として初年度(2014年)より参加し、居留地や文化財について学べるクイズラリーや講演会を開催している。11月の孫文・梅屋庄吉友情月間では長崎の偉人・梅屋庄吉についてより広く知ってもらうことを目的とし、固く結ばれた友情にちなんだ梅むすび体験や2人の友情の深さに焦点をあてたクイズラリー等を実施した。

旧正月に開催される長崎ランタンフェスティバルは日本と中国の交流をテーマ



梅むすび体験

にした展示とも重なるため、中国文化を学べる体験などが予定されている。季節や展示内容に応じて来館者に楽しみながら文化財や歴史に触れてもらえるよう今後も発展させていく予定である。

また、梅屋庄吉の人柄や人生を紹介するオリジナルすごろくは一階の無料スペースに常設し、自由に手に取って遊べるようにした。すごろくと連動したワークシートを利用することで、常設展示内容への理解を深めることができると考えている。ワークシートは滞在時間や学習目的に合わせて希望の内容を選んでもらった。時間は30～60分程度が主で、内容としては5問程のクイズラリー形式のものが人気であった。職員やボランティアスタッフの解説を聞きながら、全問正解に向けて一生懸命取り組んでいる様子が見受けられた。中国からの修学旅行・研修旅行での利用ではいずれも職員やボランティアスタッフが展示室を解説しながら案内した。質問も多くあり、非常に熱心に見学していた姿が印象的だった。

*ふり返り

体験プログラムについては受け入れ人数に上限がある。本年度は試験的に単独の夏休みイベントチラシを作成し周知に力を入れたこともあり、例年以上に申し込みがあった為、急遽開催日を増やして対応した。工作系のプログラムは申し込み希望日や時間帯に偏りがあった。希望に沿えなかった場合は受付可能なプログラムの優先受付の案内をしたが、日程や開催数などに今後工夫が必要である。クイズラリーや切り絵体験では難易度別に用意し、自由に選んで楽しめるようにしたことで、子どもから大人まで広く参加があった。付き添いの保護者と参加し賑やかに楽しむ場面も多く見られた。中国切り絵体験も初年度から行っているものであるが、季節感を取り入れ図案はその都度新しく選んでいる。作業そのものの楽しさだけでなく、中国で育まれた切り絵文化の一つ一つの図案に込められた祈りや意味を紹介することで、自国の文化との共通点や相違点に気がつくことができる。様々な国の影響を受けて発展した長崎の歴史や、現在も多くの華僑の方が暮らす長崎の街についての感想を聞く事ができた。現在は比較的簡単な図案、あるいは簡略化した図案で気軽に短時間で楽しめるように展開しているが、奥の深い世界であるので、今後より内容を充実させる方向を模索したい。



体験プログラムはアンケート等でも概ね好評であり、今後も希望するとの声を多数いただいた。子どもたちが積極的に取り組みやすく、ミュージアムに親しむきっかけとしても効果は大きい。施設そのものが重要文化財であることから保全上の様々な制約があり、開催場所や対応人員の確保といった面でも課題は多いが今後も改善を重ねて実施していきたい。

ワークシートは効率的かつ効果的に学習を手助けする役割を果たすために年齢に応じて対応できるように出題形式や文章を変えて数種類用意した。改善する上では利用者の声やアンケートを参考にしている。申込み時に希望があれば来館目的や学習段階に応じて個別に作成対応が可能のため、このオーダーメイドでのワークシート作成は利用者の満足度を高める大きな要因となっている。事前の打ち合わせが難しい場合や特に希望が無い場合は、滞在時間に合わせたおすすめプログラムを提案しているが、利用にあたっての負担が軽減できるとの声が多い。来館者のニーズは年齢や学習段階によって様々である。満足度を高めるためにはより多くの引き出しを用意しておくことが望ましい。現在はワークシートが日本語版のみであるが、外国語対応の必要性が増している。今後の課題としてはニーズに合わせたワークシートのバリエーションを増やす事、また街歩きの一環としての利用希望も多いため、周辺施設との連携についても検討していきたい。

【ほんしゃんナイトミュージアム2018】

1. 実施概要

長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアムでは夏休み期間中、子ども向けのイベントとワークショップを開催している。イベントやワークショップに参加し、楽しんでもらうことでミュージアムに親しみを持ってもらうことを目的としている。開館から毎年開催しているナイトミュージアムは、普段は見るできない夜間の展示室を見学してもらい、クイズなどを通して建物の歴史や展示について学ぶことができるイベントである。



*活動の目的

クイズなどを通して博物館を見学し、親しみを持ってもらう。

重要文化財の建物の新たな魅力を発見することで、建物を長く大切に守っていくことを学ぶ。

参加費：大人300円／小中学生150円 対象：小中学生の親子

場所：1階多目的ホール、2・3階展示室 定員：15組30名

スケジュール

受付（18時00分～18時30分）

参加者名の確認をした後、ホール内に案内する。

席に着いた時点で当館のリーフレットを配布。

1. はじめの挨拶（18時30分～18時45分）

初めに建物の説明をし、建物にまつわる内容などが書かれたミッションカードを2枚ずつ配布する。

全体の流れを説明し、参加者の安全と建物保護についての注意事項を説明する。

2. 館内の見学、答えあわせ（18時45分～19時10分）

カードの指令に沿って親子のグループで館内を巡る。

2階・3階に設置されたブースで随時答えあわせをおこなう。

2枚ともミッションがクリアできた参加者には追加でカードを渡す。

3. 1階ホール集合（19時10分～19時30分）

最後のミッションを全員で解き、答えを確認する。

アンケートの記入、各問題の解説をおこなう。

4. おわりの挨拶（19時30分～19時40分）

ミッションクリアの証として認定証と認定バッジを配布して、解散。

2. 実施内容

2018年度のナイトミュージアムは写真館を営んでいた梅屋庄吉にちなみ、クイズの答えになるものをカメラで撮影するという内容でおこなった。親子や兄弟で協力してクイズを解き、館内を探検しながら正解となるものを探してもらった。撮影したものが正解であれば次のクイズが渡されるという構成だったが、中には熱中して次から次に多くの問題を解いた参加者もいた。問題を解けば解くほどミュージアム内をくまなく見ることができるため、初めは気付かなかった館内の装飾や展示の内容がわかるようになり、終了時にはもっと解いてみたかったという声もあった。イベントの最後には長崎歴史文化博物館収蔵の写真機について説明があり、現在のカメラとの違いに驚く子どもたちもいた。一時間半の内容であったが、歴史などを楽しみながら学んでいる様子が見えられた。

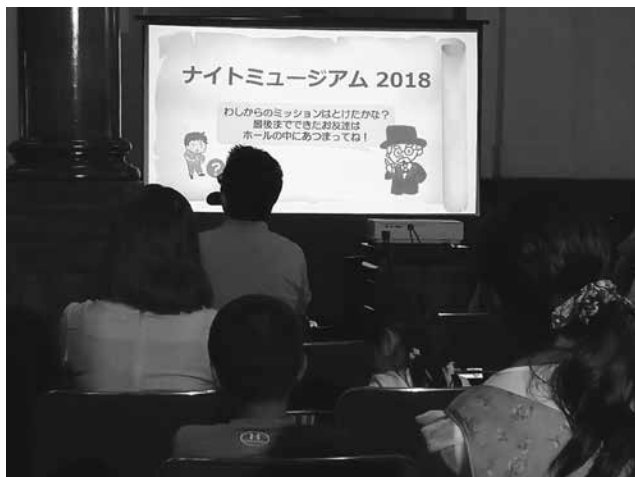
3. 成果と課題

ナイトミュージアムやワークショップは子どもたちが博物館に足を運びきっかけになるということで大きな意義がある。2018年度のナイトミュージアムの参加者で初めて来館したのは全体の半数であり、4回以上来館している参加者はその次に多かった。初めて参加する人が多かった要因として挙げられるのが、近隣の小中学校にチラシを配布していたことであろう。当館単体でのチラシの配布は初めてであったが、裏面に梅屋庄吉の人生をすろくで辿ることができる「梅屋庄吉人生すろく」を掲載したところ、例年以上の申し込みがあった。そのため急遽開催日を増やしたが、それでもキャンセル待ちが出るほどであった。このことからチラシが博物館の認知度を向上させ、さらにすろくという子どもたちが親しみやすいものを取り入れることでより効果が増すことがわかった。

参加者アンケートの中には「子どもが展示の一部分でも印象に残り、再来館したときに意味を理解することに繋がるいい企画だった」という意見があった。イベントのゲームとしての楽しさだけでなく、展示に関心を示すことができるように内容を充実させることで、次の来館とさらなる学びに活かすことができる。展示内容がやや難しい傾向にあるため、子どもたちの印象に残るようなわかりやすい視点で問題や企画作りに努めていきたい。

また、ナイトミュージアムは小中学生と保護者を対象としているが、中には未就学児が参加することもある。展示に関係するクイズやなぞなぞ形式の問題を入れるなど、できるだけ多くの子どもたちが参加できるように工夫をしている。その一方で内容が簡単すぎる、イベントの進行が間延びする、といった状況に退屈する子どもたちが出る側面もある。参加者の年齢や学年に合わせた内容の企画を心がけているが、最後まで子どもたちに楽しんでもらえるための工夫もさらに検討し、今後の企画に反映していきたい。

(金氣奈々美)



ほんしゃんの なつやすみ
長崎市 港 梅屋庄吉記念館
2018/7/21土～9/2日 休館日 8/20日

ナイトミュージアム2018
ミュージアムを探索しながらほんしゃんさんからの毎晩にチャレンジ!
写真とってミッションクリアをめざせ!

7/28(土) 18:30～20:00 (受付18:00～)
対象：小中学生と保護者
※保護者を含む1組2人以上でご応募ください。
定員：15組30名
参加費：一般300円、小中学生150円 ※県内小中学生無料
※カメラ、携帯電話、タブレット、ゲーム機など
その場で写真が撮られるものをご持参ください

香港上海銀行をつくろう!
色をぬったりシールをはって、自分だけのオリジナル絵巻をつくろう。
8月中の毎週土曜日
①10:30～②14:00～
定員：各回10名
参加費：100円(材料費)

こころをむすぶ～友情の梅むすび
水引(awase)をつかって梅むすびをつくろう。
ストラップやばねが作れます。
8月中の毎週土曜日
①10:30～②14:00～
定員：各回5組(小中学生と保護者)
参加費：300円(材料費、保護者1名の観覧料込み)

切り絵体験
幸せをわがてつづく中国の切り絵を体験してみませんか。
作品はもたかえりできます!
参加費：無料

クイズラリー
ミュージアムの展示を見ながらクイズをこころし参加するとプレゼントがもらえますよ!
参加費：無料

お申込み・お問合せ
事前申込みメニューは
電話でお申込みください。
(先着順に受付)
095-827-8746
(受付時間9:00～17:00)

長崎市港4番27号 TEL.095-827-8746
http://www.nmhc.jp/museum/

梅屋庄吉の人生すごろく
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく
梅屋庄吉
は
どなたでも楽しめる
すごろく

47才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

44才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

5才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

56才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

65才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

27才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

5才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

18才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

14才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

24才
長崎の歴史を
楽しく学べる
すごろく

長崎市港4番27号 TEL.095-827-8746
http://www.nmhc.jp/museum/

孫文・梅屋庄吉友情月間
2018年11月1日(土)～30日(土)
※19日(月)は休館

来館特典
①長崎県民の方は
ミュージアム入館無料!
②毎日先着10名様に粗品進呈!

孫文・梅屋庄吉友情月間特別展示
期日：友誼月間期間中毎日(予定)
会場：孫文・梅屋庄吉ミュージアム
料金：高校生以上300円、小中学生150円
※長崎県民は無料

ミュージアムでクイズラリー
ミュージアムでクイズラリーを見ながらクイズをこころし参加するとプレゼントがもらえますよ!
参加費：150円 ※県内小中学生は無料

中国切り絵体験
幸せをわがてつづく中国の切り絵を体験!
期日：友誼月間期間中毎日
時間：10:30～16:00 ※随時受付
会場：孫文・梅屋庄吉ミュージアム
参加費：無料

こころをむすぶ～友情の梅むすび
水引(awase)をつかって梅むすびをつくろう。
ストラップやばねが作れます。
期日：友誼月間期間中毎日
時間：10:30～16:00
会場：1階多目的ホール
参加費：無料
定員：毎日先着10名

長崎市港4番27号 TEL.095-827-8746
http://www.nmhc.jp/museum/

ランタンフェスティバル 今年も
スペシャルイベント
2019/2/5(火)～2/19(火)
期間中毎日
先着10名様
粗品進呈!

夜間開館
2/5(火)～2/19(火)
通常17時開館のところ7時まで延長営業!
(延長入館時料あり)

県民無料サービス
長崎県民300円のところ長崎県民は観覧料無料!
住所が確認できる場合は学歴、保険証等の
身分証明書をご提示ください

ランタンマーケット
ランタンフェスティバルにちなみ大衆的!
グッズやお菓子が楽しめます。
会場：梅屋庄吉ミュージアムショップ
(入館後はこちらへ)

明清楽コンサート
2/9(土) 19:00開演
二胡、月琴、胡琴、片笛など絶妙
18名によるコンサート
13:30～15:00(13:00開場)
出演：精進門下会梅屋支部
東京月社
清楽の韻

梅屋庄吉の人生すごろく
すごろく遊びながら、長崎の偉人梅屋庄吉の
人生を学ぼう! (随時受付)

クイズラリー
ミュージアムの展示を見ながらクイズをこころし
参加するとプレゼントがもらえますよ!
(随時受付)

切り絵体験
幸せをわがてつづく中国の切り絵を
体験してみませんか。(随時受付)

長崎市港4番27号 TEL.095-827-8746
http://www.nmhc.jp/museum/

ミュージアムクイズ
展示やタブレットをみながら問題に挑戦してみよう。
正解だとおもう数字を○で囲んでね。

2F

梅屋庄吉は1895年香港で一人の革命家と出会いました。
庄吉が大切な友人として見返りを求めず支援したのは誰でしょう？

① 宋慶齡 ② 香椎トク ③ 孫文

お隣の中国からたくさんのお影響をうけた長崎の街。
中国の伝統と文化を大切にしながら外国で暮らした人々は？

① 華僑 ② 喜僑 ③ 紅僑

3F

外国との定期船が就航すると多くのひとが行き来できるようになりました。
長崎丸は長崎とどこの街を結んでいた船でしょう？

① 東京 ② 上海 ③ ウラジオストック

古田商店の「御手引きラムネ」は日本人によってつくられた清涼飲料水です。
ガラスビンにある「御手引き」とは一体何のことでしょう？

① 万歳 ② 握手 ③ 腕相撲

香港上海銀行長崎支店は1904年に建てられました。
当時の居留地では最大級の石造り洋館です。設計者は誰でしょう？

① 辰野金吾 ② 若崎弥太郎 ③ 下田菊太郎

ミッション

三階と二階の展示やタブレットを調べて四角に入る言葉を探そう。

マークの文字をあつめると庄吉の大切にしていた言葉が完成するよ。

※ ひらがなで答えてね

こどもの頃から好奇心が強かった庄吉。
海外に興味を持ち14才でこっそり渡ったのは長崎と関わり深い上海。

長崎と上海を電信で結んでいたのは

海 底 る

失敗してもくじけず次の挑戦！
チャレンジ精神と行動力で新しい仕事で成功した庄吉。

香港ではじめた写真館の名前は

梅 屋 よ 相 館

孫文との約束を守るために信念をつらぬいた庄吉の一番の理解者だったトク。

トクが生まれて育ったのは

い

な

長崎で生まれた孫文ゆかりの船。
三菱長崎造船所、初の外国艦。
のちに孫文の名前がつけられる。

「中山艦」になる前の船の名前は

孫文の恋には多くの人が反対！
それでも庄吉とトクは二人のために力を尽くし、結婚へとみちびいた。

孫文と結婚したのは

宋

庄吉が大切にしていたつむぎのおりは孫文からの贈り物。

裏地のメッセージは

執筆者一覧

竹内 有理 (学芸グループリーダー)

出口 幹子 (学芸グループ主任研究員)

古豊裕次朗 (学芸グループ研究員)

松岡めぐみ (学芸グループ研究員)

石田 孝

近藤 浩一 (長崎県美術協会彫刻部評議員)

田中 正博 (長崎青房会 会長)

太田 典子 (表千家同門会長長崎県支部 事務長)

板倉 加奈 (長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム)

金氣奈々美 (長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム)

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書

－れきぶん 学びのプログラム－

発行日：2019年3月31日

発行：長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1

Tel 095-818-8366

印刷：株式会社 インテックス



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

